

第 24 回 各国大使館員  
日本語スピーチコンテスト 2021  
大会報告書

2021 年 12 月

特定非営利活動法人大使館親善交流協会  
各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
会 長 柴 田 巖  
〒179-0072 東京都練馬区光が丘 7-5-1  
TEL.03-6904-3102 FAX. 03-6735-4092

## 「第24回各国大使館員日本語スピーチコンテスト2021」大会総括

### ●出場参加申し込み応募及び観覧者

1998年度から開催している本大会は、昨年度のコロナ禍の中でも中止することなく、オンラインにて開催し、第24回11月3日の今年度も、引き続きコロナ禍での開催となり、その開催方法についてオンラインまたは会場開催と、いずれでも実施できるように準備を進め、検討して参りました。昨年度予定していた東京オリンピック・パラリンピック2020は1年延期し、バブル方式にて2021年7月から9月にわたり開催を致しましたが、その実施状況、感染状況を勘案した結果、9月末に会場開催と決定し、実施までの約1か月間で、感染防止対策の実施および開催となりました。また、大使館員の皆様も引き続きコロナ禍の折、大変お忙しいところでございますが、昨年度オンラインでご参加いただきました外交官の皆様にも、今年度は対面での会場開催をご案内することができ、最終的に13カ国15名大使館員の皆様にご出場いただくことができました。本大会も歴史ある大会となってまいりましたので、聴衆者も継続的に楽しみにしていただいている方々や、また特別共催の港区キスポーツ財団の広報誌に掲載いただき、港区民の方々にもご来場いただきました。Facebook, Instagramなど、Webでの告知もしてまいりましたので、継続的な観客者の他、新規の観客者も少しずつ増えてきたことと思われまます。400名の会場を、定員200名とし、ご出場者の関係者も含め、ほぼ会場が定員満席となる盛会となりました。

大使館員ご出場者の皆様および審査員の皆様もマスク、手袋などの感染予防対策にご協力いただきました他、観客のご来場者の皆様にも、消毒・検温、マスク着用などご協力いただきまして、無事会場にて開催できました。

スピーチにつきまして、日本語が上手なのは勿論ですが、日本人にもあまり知られていない日本に関する歴史、文化、日本とのつながりなど、ユーモアにも富んだ構成で、内容も充実した素晴らしいものでした。コロナ禍の中であっても世界の文化、日本とのつながりなどをお伝えすることなど国際交流という貴重な時間をお過ごしただけかと思ひます。

### ●大会結果

日本語は習得が難しい言語の1つといわれています。語学力に優れた外交官といえども習得には一苦労のようです。お国自慢の笑いあり、涙あり、13カ国15人の大使館員が、思い思いのテーマを日本語で日本人の心を語られておりました。3人の入賞、2名の特別賞が確定し、計5名の方々が受賞の栄冠を得ました。

コロナ禍の中、感染防止対策を実施の上の会場開催といたしましたが、本事業終了後、2週間経過後も、体調不要などの問題もなく、「第24回各国大使館員日本語スピーチコンテスト2021」を無事終わらせることができました。これはひとえにご協力いただきました関係者の皆様のおかげであると思います。またコロナ禍の中、予定を繰り合わせて、難しい問題をいろいろ乗り越えてお話しくださったスピーカーの皆様にもお礼を申し上げたいと思います。ホームページ、Facebook, instagramなどのオンライン上での告知も継続的に配信し、世間での認知度の向上をめざし、広く日本中に、また世界中に配信し、国際交流、相互理解の一助になればと思っております。引き続きご支援を賜れますようお願い申し上げます、大会報告の辞にかえさせていただきます。



## 司 会 者

大 里 希 世 様

それではお時間となりましたので、これより第 24 回各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021 開会いたします。本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。私司会を務めさせていただきます大里 希世と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

さてこのスピーチコンテストなんですが、日本語によりますスピーチを通じて各国大使館における日本文化の理解向上と、草の根レベルでの国際相互交流を目的に、1998 年より始まりました。以来、毎年開催をされておりました、これまでおよそ 400 名の外交官や大使館スタッフの方々が文化、言語、宗教の違いや共通点を踏まえた体験談をスピーチで披露し、国際相互理解の大切さを訴えてまいりました。

昨年なんですがコロナの影響もありまして、初めてオンラインでの開催となりましたが、今年は感染防止対策を実施させていただきまして、会場で開催する運びとなりました。今回は 15 名の大使館員の皆様が日本語で体験談を語ってくださいます。

このスピーチコンテストですが、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団の特別共催、特定非営利活動法人大使館員親善交流協会の主催。外務省、文化庁、独立行政法人国際交流基金、東京都、港区、NHK、一般財団法人港区国際交流協会より後援をいただいております。

それでは開会にあたりまして、実行委員長、アオバジャパン・インターナショナルスクール理事長の柴田巖より皆様にご挨拶をさせていただきます。では柴田さん、お願いいたします。

## ■開会式

### ご挨拶



### 大会実行委員長

アオバジャパン・インターナショナルスクール理事長

柴田 巖 様

皆様、本日はご多用の中お運びいただきまして誠にありがとうございます。また、本日オンラインでもご参加いただいております方々もたくさんいらっしゃるというふうに聞いております。この11月、年の瀬もやや迫ろうとしている中、貴重なお時間を頂戴して本当にありがとうございます。

先ほどご紹介にございました通り、98年から毎年開催して、足かけ24回目のこのコンテストとなります。元々は梅北様、篠原様といった、初代の事務局の方々のご尽力によりまして、先ほどのご紹介させていただきました各共催団体の皆様のお力添えをいただいております。

昨年は23年間で初めて100%オンラインという形でのイベントとなりましたが、今年は何とか11月に、こういった形で皆様とフェイストゥフェイスで、またオンラインでのご参加もいただきながら、ブレンド形での開催になりましたことを、関係者一同、裏方一同、安堵しております。

異国で、それから異国の異なる、母国語とは違う言葉で、こういった素晴らしい舞台上でスピーチをするということは非常にプレッシャーもかかると思いますし、それから様々な準備も必要だと思います。今ちょうど、そのCOP26ですとか、それからつい先だってまではG20ということで、大使館のご関係者の皆様、非常に多忙な時間を過ごしていらっしゃる中で、こういった形で15名中14ヶ国の皆様に実際に手を挙げていただいたことは本当に光栄に思っておりますし、この数時間のひとときが有意義な形で無事に終わられることを非常に祈念しております。

この2020年、それから21年は、世界的には必ずしも心地良いことばかりではなかった

ひと時だと思えますけれども、毎年私もコンテストに参加いたしまして、各プレゼンテーションをしていただく方々が、本当に感情豊かに、そして高い視座から日本文化、それから日本語に関してスピーチをいただけることを学びの場としております。

今回、さらにそういったコロナという文脈が新たに伝えようありますけれども、おそらく、そういったことも踏まえてシェアリングプラネットと申しますか、この地球全体をみんなで共有していくと、そういう価値観が再確認できる数時間になるのではないかなというふうに思っております。

どうぞ皆様、オーディエンスの皆様は、プレゼンテーションいただく方々に温かい拍手応援をしていただきたいと思いますし、それから今後、プレゼンテーションいただく方々は、ぜひ精一杯準備を、100%以上のパフォーマンスを発揮していただければと思っております。

本日はどうぞよろしく願いいたします。



大会アドバイザー  
衆議院議員  
岩田 和親 様

続きまして、衆議院議員、岩田和親様より祝電を頂戴しております。私の方よりご紹介をさせていただきます。

「第 24 回各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021 の御開催おめでとうございます。選挙直後の用務と重なり、残念ながら出席が叶いません。今回発信されるウィズコロナ、アフターコロナにおける未来の国際交流のあり方について私も共に考えたいと存じます。ご盛会をお祈り申し上げます。経済産業大臣政務官兼内閣府大臣政務官、県復興大臣政務官、岩田和親。」

頂戴しましたお祝いの電報をご紹介させていただきました。



## 審査員

カザフスタン共和国大使館

クルマンセイト・バトルハン公使

こんにちは皆さん。ご紹介にあずかりましたカザフスタン大使館の公使を務めております、クルマンセイト・バトルハンと申します。外務省、文部科学省、文化庁、主催者の皆様にもまず感謝申し上げます。このような素晴らしいスピーチコンテストを主催して頂いて、また参加者の皆様にも、ご成功、盛会を申し上げ、お祈りしたいと思っております。また審査員の方にもよろしくお願ひいたします。今日私はこちらに招いていただいたことを、たいへん光栄に感じております。たいへんありがたく喜んで参加させていただきました。

私は2009年、2011年に2回、このスピーチコンテストに参加させて頂いたことがありまして、どういうわけか、2回も1位となって優勝となりました。このコンテストは、コンテストといわれる限りそういった1位、2位というのがありますけれども、ただ、先ほどお話の中にありましたように、あと案内状の中にも書いてありましたように、これはコンテストじゃなくて、やはり、皆さんで交流を図っていくための素晴らしい場だというふうに考えていただきたいと思います。

私は今日はですね、どういう商品が送られるかわかりませんが、自分が優勝したときに、日清フードという会社からですね、カップラーメンが送られたり、アサヒビールからですね、ビールですね、商品券が送られたり、あと日立市からでしたっけ、一袋のお米、それもコシヒカリが送られたりしてですね、ちょっと、ケチってしまって、全部を自分で飲んで食べてしまってですね、その結果はご覧の通りです。日本の飲み物、食べ物の美味しさ、その危なさ、そのヤバさをですね、自分の身に置いてわかっています。

2014年に一旦自分の国に帰国して、9月に改めて公使として戻ってきました。今後ともよろしくお願ひします。

自分の国にいたときにですね、実はこの場を借りて、謝らなきゃならないことが一つあって、当時の事務局の梅北さん、先ほどお話の中にありました梅北さんにですね、2011年の2回目の優勝したときに外務大臣の賞杯をですね、大使館の中にずっと持っていて、次の2012年のときのスピーチコンテストが行われる時に、その前に梅北さんと話をしまして、これを返さなきゃならないでしょと聞いたら、なぜか、梅北さんが、「いやあれはね、2回目ですか

ら、初めて同じ人が 2 回優勝してるからあなたにあげます。」と言われちゃったんですね。あれは実際、いただいてしまったんですね。その後、梅北さんが事務局長を辞めたとお話ありましたが、まさか私のせいじゃないかと思って、心配しております。ただ、自分の国に持って帰って、あの賞杯だけはですね、本当に自分の宝物、自分の財産というふうと考えてずっと保存していきたい、保管していきたいと思っております。その 2011 年までのスピーチコンテストに優勝した方々の各国大使館の外交官の名前もですね、書いてありますし、大事に私のところで保存させていただいております。そこから新しく紹介ができたと思いませんけれども、新しい賞杯を取るために 1 回また参加させていただきたいなとも思ったりしますけれども、今日は審査員としてお招きいただいて、参加させていただきました。

カザフスタンと日本の関係はですね、30 周年になりますけれども、その 30 周年に合わせてですね、独立の 30 周年と、日本との外交関係樹立 30 周年合わせて、カザフスタンで一番有名な詩人である偉大な詩人であるアバイという詩人の本を、詩集をですね、初めて日本語に訳して発行しましたので、今日主催者の承諾を受けて、こちらに置いてありますので、ぜひ皆さん持って帰っていただいて、カザフスタンの歴史、文化、宗教などについて勉強していただきたいと思えます。

以上、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。よろしく申し上げます。



## 審 査 員

外務省大臣官房文化交流・海外広報課長

津 田 陽 子 様

本日は第 24 回各国大使館員日本語スピーチコンテスト開催を心よりお祝い申し上げます。マイクを失礼いたします。このように歴史あるコンテストの審査員の 1 人として出席できますことを大変光栄に思います。

私ども文化交流・海外広報課では、国際的な文化交流、そして国際交流基金を通じてではございますが、日本語教育といったことも推進しております。2018 年度の国際交流基金の調査によれば、海外の 142 ヶ国地域の約 385 万人の方々が日本語を学習しています。日本語学習の目的としては、就職や留学のような実利を目的とする方だけではなく、最近には、アニメや漫画といったポップカルチャーなど、日本文化への関心や異文化の興味も、より学習動機として多く挙げられるようになっております。日本語学習を通じて日本文化を学び、また日本に対する理解と認識を深めていただくことができます。これは日本と外国の友好関係の基盤を作るため重要な要素になりますので、この意味でも日本語を学ぶ方々というのは、日本と諸外国の国際相互理解を深める上で大切な架け橋であり、我が国としても大きな財産であることから、外務省としても推進しているところでございます。

本日コンテストに出場される皆様は、日本で勤務される外交官の方々です。いわば国際交流のプロの方々ばかりでございます。私自身は同業者といたしまして、外国語の勉強というのが、一朝一夕にはならないということはよく承知しております。忙しい大使館業務の傍ら、日本語の勉強、またはそういう維持をすることは大変なことだということも身に染みて理解しております。日本語の勉強を早い時期から開始された方々もいらっしゃれば、ある日、突然、辞令ということで、突如身につけなければならなくなった、いろんなバックグラウンドの方がいらっしゃるのではないかと思います。皆様のご尽力に対して心より敬意を申し上げます。仕事上で日本語を使っただくことはもちろんのことを、参加者の方によっては通訳ということもあるかもしれません。日常生活での普通の日本の方々との交流や日本文化に接する機会を通じて、言語を学ぶことによって、いかに生活が深みをまして、豊かになりまた日本の社会文化への理解を深めるか、楽しみが広がるか、そういったことを見守って、皆

様経験、体験されている方ばかりでございます。皆様のスピーチのタイトルから拝見すると、多彩な題材を取り上げられており、今からその内容を拝聴するのが大変楽しみです。

このコンテストで毎年、日本の社会や日本人について、新鮮な視点から多くの指摘がなされ、日本人にとっても新たな発見が多いというふうにも聞いております。このようにお互い得ることの多い、それが国際文化交流の素晴らしいところだと思います。

最後に、本大会の開催にご尽力された多くの関係者の皆様に敬意を表しますとともに、本大会の益々のご発展を祈りまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。



## 審査員

文化庁国語課長

圓入 由美 様

皆様こんにちは。私ご紹介いただきました、文化庁国語課長の圓入と申します。本日は第24回各国大使館員日本語スピーチコンテストが開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

現在日本に住む外国からいらっしゃる方は約289万人と、過去30年で3倍に増加しております。新型コロナウイルス感染症による入国規制の影響を受けておりますけれども、国内の日本語学習者数も2019年には約27万人と急速に増加傾向にございまして、今後も日本に住む外国の方や日本語学習者の数は、ますます増えていくというふうに考えております。

政府といたしましても、共生社会の実現に向けまして、外国人材の受け入れ、共生のための総合的対応策が2018年に策定され、2021年にも改定されております。また、円滑なコミュニケーションができる環境を整備するため、日本語教育の推進に関する法律が2019年に新たにつくられまして、日本語教育の環境整備を推進させていただいております。

私共文化庁といたしましては、日頃から外国の方々への日本語教育に関する政策を実施しております。例えば、地方におきましても、生活の中で日本語のコミュニケーションが必要だという方が非常に多くいらっしゃると思いますが、地方自治体の皆様とも協力しながら、地域の中で気軽に日本語を学べる日本語教室の開催ということで、全国に展開をすることで、皆様誰でも日本語を学びたいという方につきましては、身近なところで日本が学べるような、そういった環境作りというものを進めております。外国の方々も、我が国の文化の基盤である日本語を通じまして、日本や日本文化への理解を深めていただくことは、日本と各国の友好関係の基礎となる、とても大きな大切なことだと考えております。

本日の出場者の皆様には、身に付けられた日本語を活かして、今後も母国と日本の架け橋となって、一層ご活躍されることを心から祈っております。また、ご来場者の皆様も、本日のスピーチコンテスト、通じまして日本語の魅力、そして国際交流の素晴らしさについて理解を深める機会としていただければと、大変期待しているところでございます。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響の中、本日のコンテストのご準備に当たられましたご関係者の方々のこれまでのご尽力に敬意を表しまして、そしてまた出場者の皆様のご健闘を心からお祈りいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。



## 審 査 員

NHKエデュケーショナル ディレクター

村 島 章 恵 様

皆さんこんにちは。今回、審査委員長を仰せつかりましたNHKエデュケーショナルの村島章恵と申します。去年も審査委員長ということですね、オンラインで皆様方にお目にかかった方も多いのではないのでしょうか。今回は2年ぶりの対面でのスピーチコンテストということで、皆さん方に直接お会いすることができ、そして審査員の方々ですとかスタッフの方に直接お会いすることができ本当大変嬉しく思います。コロナが落ち着いてきて、こういう形で対策をとりつつ、開けるようになったと思います。私の知り合いの外交官もここおよそ2年、外交官の本来の仕事である、人とあって、知り合いになって、意見交換をするという場が失われてしまって大変フラストレーションが溜まったというふうなことをおっしゃっていた方もいらっしゃいます。皆さん方もそうかと思います。それが徐々に改善しまして、今回の24回の大会になったわけです。

こういう会議といいますと、先ほど柴田さんもちょっと触れておられましたけれども、週末から今週にかけて行われたあのローマで行われたG20サミット、それから今イギリスのグラスゴーで開かれておりますPOP26、こういうのも2年ぶりの対面での国際会議となっているということです。そういう国際会議と比較するわけにはいきませんが、今日これから出演する方は、そのそれぞれの個人にとって一番大事な機会になるのではないかとこのように考えております。

そして今日のスピーチは赤坂区民センターホールというこの場だけでのスピーチなんですけれども、場合によりましてはNHKにおいでいただいて、NHKの番組で皆さんの声を世界に向けて発表するというのも考えております。実際去年参加されたオランダ大使館の方、今年も参加されるようですけれども、その方には今年の4月にNHKに来ていただきまして、お国のことですか、このスピーチで発表されたことを話していただきました。この番組は日本国内はもちろんのこと、世界中に発信している番組ですので、皆さん方のお話が世界に向けて発信することもできるかと思います。そういう機会もありますので、ぜひこれから皆さんスピーチぜひ頑張ってくださいと思います。よろしくお願ひします。

第24回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021  
出場者一覧表

順番	大使館名	スピーカー名	タイトル名
1	インド大使館	Mr. Abhishek Goel アビシェク ゴエル 様	『日本と私』
2	エジプト・アラブ 共和国大使館	Ms. Rasha Hassan ラシャ ハッサン 様	『日本の学生対社会 人』
3	アメリカ大使館	Mr. Bon E. Fleming ボン・フレミング 様	『カントリーロードを 離れて～祭りの山車 の上で見つけた道』
4	アンゴラ共和国 大使館	Ms. Amelia Mutango Fernandes アメリア・ムタンゴ・ フェルナンデス 様	『日本人の外国人に対 する受容性はどうか？』
5	シンガポール 共和国大使館	Mr. Nicholas QUAH ニコラス・クア 様	『居心地』
6	アメリカ大使館	Mr. Strader Payton ストレイダー・ペイトン 様	『秘境も資源？』
7	カナダ大使館	Ms. Lisa Mallin リサ・マリン 様	『オリパラアスリート の気づきから、私達 の日常まで』
8	シリア・アラブ 共和国大使館	Mr. Feras ALATTRASH フィラス・ アルアトラッシュ 様	『日本語学習で学んだ こと』
9	アルメニア 共和国大使館	Dr. Sargis SHIRKHANYAN サルキス シルカニャン 様	『私の発見の旅路： メロンパンから 「遠慮の塊」へ』
10	オランダ王国 大使館	Mr. Theo Peters テオ・ペータス 様	『オリンピックからの 響き』
11	ロシア連邦 大使館	Ms. Khaiznikova Alena ハイジニコワ・アリョーナ 様	『選択された東京』
12	アメリカ大使館	Mr. Garvey McIntosh ガーヴィー・ マッキントッシュ 様	『未来の平和のためには、 互いの文化を理解する ことが必要です』

13	ボリビア 多民族国大使館	<b>Ms. Claudia Gozalves</b> クラウディア・ゴサルベス 様	『日本で出会った故郷 の音楽』
14	バングラデシュ 人民共和国大使館	<b>Mr. Syed Nasir Ershad</b> ソヨド ナシール エシャド様	『何が私を日本に連れ てきたのでしょうか』
15	オーストラリア 大使館	<b>Mr. Tom Wilson</b> トム・ウィルソン 様	『東京 2020 の思い出』



## 『日本と私』

インド大使館

Mr. Abhishek Goel

アビシェク ゴエル 様

皆さん、こんにちは。アビシェク・ゴエルと申します。

本日私は日本からもらった宝について、話をさせていただきます。よろしくお願い致します。

### 「日本と私」

物心ついた時から、スポーツが大好きでした。スポーツを見ることも、することも私の一部です。人間の限界に挑もうとする姿、その忍耐力、決断力、精神力に刺激を受けます。スポーツ選手達は、人間の頂点にいる。そう思い、いつも憧れていました。子どもの頃は卓球に熱中し、プロの選手達の活躍に心を打たれた私は、いつかインド代表としてオリンピックに出たいと願うようになりました。しかし、成長するにつれ、勉強が私の中心になりました。外交官として、外交官というキャリアを追い求めて行くうちに、色鮮やかな、描いていたはずのオリンピックの夢が薄れていきました。それでも、心のどこかにこの夢の欠片が残っていました。

外交官になってから、自分のキャリアの第1歩として、日本を選びました。幼い頃から、文化と歴史に興味を持っていたからです。2019年に東京に来た私は、2020年の東京オリンピックを楽しみにしていました。外交官として試合を見られるかもしれない、選手たちに会えるかもしれない。そういった期待を膨らませていました。けれども東京オリンピックは2021年に延期されることになったと知り、私はがっかりしました。

ところが、思わぬ形で幸運が舞い込みました。研修期間が終わり大使館で勤務を開始する私は、スポーツの担当をすることになったのです。あの頃思い描いた人生と今の私が繋がった瞬間でした。そして私は、オリンピックの代表チームを任されることになったのです。まさかこんな機会を貰えるとは夢にも思っていませんでした。目の前に子供の頃に憧れた人達の活躍を見て、応援して、時には慰めて、仕事は何倍にも忙しくなりましたが、でもまたとないこの経験を一瞬一瞬楽しみました。私が東京2020にもらったものは私の人

生の宝物です。一生涯の思い出をくれた日本に心から感謝します。

皆様、スポーツは私達の能力の限界を押し上げるだけではない。それ以上に、人々のコミュニティと距離までも決断させてくれる不思議な力があると、私は信じています。この力を上手く活用できれば、外交的手段を優先させることができ、さらに紛争を解決するためのプラットフォームを作ることができるでしょう。この困難な時期でさえ、スポーツは私達に、共にやればいつだって強くいられるという希望の光を与えてくれます。

私はオリンピックで得た経験と、そして外交官としての機会を活かし、定期的かつ、より頻繁なスポーツ交流を通じて、インドと日本の更なる関係に取り組む手助けができると思っています。来年は日本とインドの国交樹立の70周年にあたります。両国間の交流が盛んになることを祈っています。皆様、ご清聴頂きありがとうございました。



## 『日本の学生対社会人』

エジプト・アラブ共和国大使館

Ms. Rasha Hassan

ラシャ ハッサン 様

皆さんこんにちは。私は、エジプト大使館のラシャです。よろしく申し上げます。この機会を与えていただきどうもありがとうございました。

実は日本に来るのが初めてではありません。私は美しいICU大学の2001年のサマースクールの学生でした。とても楽しかったです。学生にとって最初の挑戦は初めて公共交通機関を利用することでした。ここはタクシーがとても高いので、最初は電車とバスを利用しなければならずちょっと心配でしたが、いつも親切な人がたくさんいて助けてくれました。とても楽しかったです。ところで、公共交通機関でたくさんの友達ができました。私はとても幸せでした。

社会人として私は今日本で自分の車を運転しています。日本の道はあんまりにも違うので、やはり私は最初は心配でしたが、道はとても整理されていて静かなので、私もとても楽しんでいきます。

2001年の日本では英語を話す人に会うのはちょっと大変でしたが、今ではいつでも見つけることができます。

もちろんそれだけではありません。私が行った好きなところについてお話したかったです。例えば、大阪、京都、富士山などのいろいろな美しいところがあります。そして、日本の独特の文化と桜が大好きです。日本は不思議な国だと思っているので、もっと話がありますが、あんまり時間がないので残念です。

もう一つ言いたいことがあります。前回の旅行で、持っていたたくさんの小銭をようやく使えるようになったので、また来ることができてとても嬉しいです。

最後に、いつもお世話になっている日本人の皆さん、本当にありがとうございました。あなたの美しい国がますます成功と繁栄を願っています。私はエジプトのファラオ文明が好きな日本人の友達がたくさんいます。そして今エジプトはみんなを歓迎しているのでぜひ行ってみてください。皆さん、ご清聴どうもありがとうございました。



## 『カントリーロードを離れて～ 祭りの山車の上で見つけた道』

アメリカ大使館

Mr. Bon E. Fleming

ボン・フレミング 様

皆さんこんにちは。フレミングと申します。

私にとって人生初の海外生活は、日本に来た 2000 年の時のことでした。もともと物理学の博士号を取ろうと考えていましたが、まずは世界を見てみたくて日本政府主催の JET プログラムに参加したんです。そしてやってきたのが大阪の岸和田市、2 年間英語教師を勤めました。今日の自分のあるのが岸和田市のおかげなんです。

岸和田市と聞いて、皆さんどない思われました？多くの日本人に、岸和田はめっちゃ怖くて、かなりやばい町やと思っているんじゃないですか？ちなみに、アメリカの普通の町と比べたらほんまに平和な安全なところですけど、岸和田にいたらみんなめっちゃ親切で、日本の普通の町と比べても、同じように他人様に迷惑はかけへんようになってしっかり暮らしてはりますよ。せやけど、多分、「岸和田ヤバいんちゃう？」と思われる 1 番の理由は、私も当時大好きで参加しましたが、だんじり祭りにあるんやと思います。

「そうりゃ、そうりゃ」と言って叫びながら 100 人ぐらいの男がだんじりちゅう山車を綱で引っ張って、町でグルングルン走り回る。「角を曲がると、どこでだんじりがひっくり返って、誰かが引かれて死んでもうた。えらいこっちゃ。」そんな事故もちよくちよくあります。それに、1 日 1 年中朝から晩まで練習しているだんじり組の「そうりゃ」の声で、確かに寝られへんかったこともあります。せやのに、町中のみんながだんじりを心から愛しています。だんじりは、岸和田市の誇りだからです。まあ知らんけど(笑)

さて、他人に迷惑をかけない人たちにとっては、こんなに危なくてうるさい活動を支持するなんて信じられないことですよね。ですが、このような矛盾は、日本では岸和田に限りません。隣の下手なバイオリン練習を許せなくても、騒々しい選挙カーは OK です。電車では、お客さんみんながシーンとして、ちょっとでも子供が泣けば眉を潜めているのに、駅を一步出るとパチンコやスーパーの派手な音楽があふれている。アメリカではこういっ

た商売はほとんどないんですよ。お寺では静かに過ごしても、家では娯楽番組をつけて喚き回るタレントを見て楽しむ。皆さんも、やはり静かさも賑やかさもどちらも好きなのではないですか。

ところで、科学を専攻した私は、複雑なシステムを解明することが好きなのですが、最初に日本にやってきたときによく気がついたことの一つは、世の中はあんまりにも複雑だということです。日本での経験を通じて、改めてアメリカの生活や文化にも振り向きました。「そうか、自分の国も、矛盾だらけじゃないか。」まさに灯台下暗しです。しかし、矛盾は決して悪いことではありません。このような矛盾の存在に目覚めた私は、物理学が解明しきれない人間を、もっと知ってやろうと決心し、物理学博士号の道をやめて、国際関係の修士を取りました。だんじりの綱を握るかごとく、一気に方向転換し猛然と外交の道へ走り出しました。そうりゃ！



## 『日本人の外国人に対する 受容性はどうでしょうか？』

アンゴラ共和国大使館

Ms. Amelia Mutango Fernandes

アメリア・ムタンゴ・フェルナンデス 様

こんにちは。外国人の受け入れ方について。

日本は世界の中でも強い文化、規律、最も進んだ国の一つであることで知られています。近代的で最新技術を備えた町は、古い文化と習慣を保ちながらも、特有の方法で、経済・技術発展を遂げています。

2019年12月6日、私は外務省共催商工会議所によるツアーに参加しました。

そこで、日本の中小企業の現状とイノベーションに関する課題、ビジネスでの成功の秘訣やグローバル化、デジタル化の戦略を知ることができたことは、大変有意義でした。

受け入れには厳しい国ですが、日本は日本に住みたいと思う外国人とは、良い関係を築いています。外国からの移住者は、経済活性化に重要であり、日本の文化が好きで素晴らしいと思うことから、移住を望む人は少なくありません。

これゆえに、より良い生活を求める人や、素晴らしい文化を経験したい人、新しい言葉を学びたい人や、良い機会を求める人には、日本で暮らすことは良いと思います。

もう一つの良い点は、私が日本に来たときに気づきましたが、大都市には多くの可能性と完璧な公共サービスがあることです。

日本で勉強することは、安くはありません。特に、大学で奨学金を得られないと大変です。質の高い教育ですが、しっかりと準備し、資金を準備することが必要です。

私の日本での思い出の中には、他の人が味わうことのできない日本の印象があります。

ありがとうございました。



## 『居心地』

シンガポール共和国大使館

Mr. Nicholas QUAH

ニコラス・クア 様

皆さん、こんにちは。本日は皆さんの前でスピーチをする機会をいただいて大変嬉しく思います。私の名前はクア トゥアン ニコラスです。中国の標準語ではクォーチェンと読みます。お気づきのようで同じ名前でも発音が異なります。子供の頃、両親にその理由を聞くと漢字を書き間違えたからだと言われました。この出来事は、両親にとって頭痛の種となりました。なぜなら、幼い私は毎回どんな場所でも大きな声で漢字をよくチェックしてくださいと叫びました。両親には恥ずかしい思いをさせてしまいましたね。でも、シンガポールの多民族社会にとって名前の呼び方は重要なものです。私は中国語のウーチェンよりも、福建語のトゥアンがしっくりくると感じます。これは外交官として来日した私の経験にも繋がっています。

2004年、11歳の時に福岡で開かれたアジア太平洋子ども会議に参加しました。世界40ヶ国から集まった200人以上の子供たちが日本のホストファミリーと2週間を過ごしました。私のホストファミリーは水上さんといい、とても素晴らしい家族でした。一緒に阿蘇山に出かけ、そして公園でセミを取りました。私が日本文化を体験できるように、友人を招いて小さな祭りまで開いてくれました。水上さん一家と過ごした時間は、大切な日本での思い出です。私を含め会議に出席した子どもたちは、ジュニアアンバサダー、つまり子ども大使と呼ばれました。子どもの頃に大使になった私は、残念ながら今のところまだ2等書記官ですけれど。

冗談はさておき、外交は私達が日頃から行っていることだと思います。子どもの頃、ジュニアアンバサダーとして、日本人の友達にシンガポールについて説明して、日本のことも学びながら、友達作りをするのが好きでした。日本とシンガポールが長年かけて築き上げた友好と信頼関係のもと、日本にすることができて嬉しいです。日本での経験を表すならば、家族のような居心地よさです。

「居心地」という言葉を文字通りに読むと、心のあるところとなります。この言葉を読む

と、いつも笑顔になり、英語の表現である **home is where the heart is** 故郷は心の中にある、ということをおもひ出します。

ホームステイ中に、私がお母さんと呼んでいた水上さんと、私の名前の漢字を辞書で調べたときのことです。窓から太陽が差し込む中、アカネさんは「見つけた」と言って、微笑みながら、冷蔵庫に貼られた家系図に私の名前を書いてくれました。多分そのときから、日本は私にとって家のような居心地の良さと言えます。

今でも私は、外交官としてシンガポールの経験を日本の皆さんと共有し、日本と日本の優れた外交官のコミュニティから学び、世界にポジティブな変化をもたらしたいと願っています。今後ともよろしくお願ひいたします。



## 『秘境も資源？』

アメリカ大使館

Mr. Strader Payton

ストレイダー・ペイトン 様

日本人の友達から、日本は島国で資源がないとよく聞きます。確かに石油や鉱物などのいわゆる天然資源が少ないところですが、実は意外と経済面にも利益をもたらす持続可能な資源が豊富です。それは日本の秘境にある自然です。実は私も数多くのエコツーリズムの体験を通じて、日本の秘境に本当に魅了された1人です。

さて、皆様、御蔵島という名前を聞いたことがあるでしょうか？東京都心の南、約190kmの距離にあるこの秘境の島は、黒潮の影響を受けるところに位置しているため、周囲の海がいろいろな海洋生物にとって理想的な環境です。

先日、妻と一緒にこの日本人にさえあまり知られていない小さく魅力的な島、伊豆諸島に属する島に好奇心満々で行ってきました。私達はそこで美しい景色や親切な人々のんびりした雰囲気などの、陸上にあるものを発見したのはもちろんですが、何よりも海の中で海洋生物の極楽に入り込んだような気持ちを感じました。

御蔵島の最も重要な資源は、ミナミバンドウイルカの群れです。私達は御蔵島という日本の島に、野生イルカと泳げるツアーがあるということを知ってからほぼ1年後、ついにこの可愛くて、賢い海の大使と会う夢を実現しました。3日連続でいくつかのイルカの群れと知り合っ一緒にイルカと遊んだことから、2人共大いに満足感を得られました。その上、御蔵島で、もちろんだルフィンスイムツアーの会社の人たちに楽しい経験をさせていただきましたが、それに加えてイルカの区別方法や、彼らが住む環境、彼らの行動などについての知識も高めていただきました。娯楽プラス自然の教育、これはまさにエコツーリズムだと思います。

御蔵島の家は、自然環境の保護自体が経済面の資源となりうることを示します。もし、伊豆諸島の漁業が乱獲を行ってしまうと、イルカの餌がなくなって、その結果、観光業の重要な資源も失ってしまうのです。

日本のエコツーリズムの資源は海洋生物のみならず自然美、滝、山、温泉などの特徴的な場所もたくさんあり、これからも次の世代のために大事に守らなければなりません。

日本でのこの先の3年間の任期中、日本の秘境を探検しながら、エコツーリズムに参加し続けるつもりです。また、外交官として、日本の社会の各界からのパートナーとともに、我々の共有している環境を守るための機会を探すことに全力を尽くしたいと思います。

地球は一つだけで、環境保護は国籍に関わらず、全世界の全員が責任を果たすべきなのではないでしょうか？地球という同じ船に乗った者同士、我々の地球のために頑張りましょう。以上です。ありがとうございました。



## 『オリパラアスリートの気づき から、私達の日常まで』

カナダ大使館

Ms. Lisa Mallin

リサ・マリン 様

皆さんこんにちは。今日はよろしくお願いいたします。

私は物心がつく頃から、オリンピックでアスリートを応援することが大好きでした。それは日常生活では経験できない感動、驚き、学びがあるからです。虹色のユニフォームを着てテレビに映し出されたアスリートたち。身体と強靱な精神力で、驚くべき高みへ挑戦するアスリートひとりひとりのストーリーに胸を打たれ、カルガリー五輪から東京 2020 まで欠かさずチームカナダを応援してきました。

コロナ禍で世界中が困難な状況に置かれた中で、多様性と調和をテーマに開催された東京 2020。今回は 2 人の女の子の母として迎えた初めてのオリンピックとパラリンピックでした。外交官として、日本に住む機会に恵まれた私にとって、この大きな舞台を通して、娘たちに何を伝えられるのか。どうしたら日常生活の多様性と調和に繋がることができるのか。これを考えさせられる貴重なきっかけになりました。

まず最初にアスリートたちが気づかせてくれたのは、女子アスリートの活躍の舞台とその重要性でした。子どものときに十分な身体活動を行うことは、体力や学力の向上やメンタルヘルスの改善にも貢献すると言われていています。一方、運動スポーツに対する指向は男女差があり、男の子に比べると、女の子はスポーツをする比率が今でも低いと言われていています。カナダ国内で今年 5000 世帯を対象に調査を行ったところ、コロナの影響で、4 人に 1 人の女の子はスポーツを続けることが困難という回答が戻ってきました。

そのような中、東京 2020 は国際オリンピック委員会によると、約 1 万 1000 人のアスリートの 49%が女性で、オリンピック史上最もジェンダーバランスのとれた大会でした。パラリンピックにおいても、参加者の少なくとも 40.5%が女性で、2016 年のリオ大会よりも女性選手が 100 人ほど増えていると聞いています。

私はこのことにとっても大きな意義があると思います。なぜなら、英語では You can't be what you can't see.ということわざがあります。直訳しますと、見えないものにはなれない。東京 2020 の女子アスリートの活躍ぶりを、世界中のスクリーンで見ることができ、私

にもできる、やってみたい、と思った女の子たちは数多くいるのではないのでしょうか？カナダ女子サッカー代表の応援に夢中になった母親を見た私の娘たちも、サッカーに興味を持ってもらいました。

二つ目の気づきは、障害がある人たちが持つ、問題解決力というスーパーパワーとその重要性です。私は東京 2020 の開催式に出席するために来日した、カナダのダイバーシティとインクルージョン大臣のクワトロさんの話を聞く機会に恵まれました。実は彼女自身、パラリンピックの水泳で三つの銅メダルを獲得して、アスリートであり、引退後は弁護士として、人権問題に取り組んでいる方でした。障害を持つ人がより参加できる社会の実現に向けて何が必要なのか、彼女の経験から話をしてくれました。現在彼女がビジネス界の話をするときはこう語るそうです。世の中は、障害を持つ人のためにはできていない。でも、その中で生きていく限り、障害者は日々課題にぶつかり、それを次々と解決していく力を持っている。私達には想像もしない角度から世界を見て、日々問題解決を行っているようで、障害を持つ人たちは、問題解決のスーパーパワーを持っている。そのような人材を雇用すれば、当然ビジネスの利益や社会の問題解決に繋がるはずです。コロナ禍において、世界が抱えている課題が複雑化していく中、様々な角度からものを見て、問題を解決する人材が求められる時代になってきたのではないのでしょうか？

世界には 10 億人以上が何らかの障害を抱え生きているといます。パラリンピックのときだけ障害者が受け入れられるのではなく、大会から私達の日常や社会生活で活躍の場を広げられることを期待しています。

最後に、素晴らしい東京 2020 を開催してくださった日本の皆様に心から感謝をしています。皆さん、ご清聴ありがとうございます。



## 『日本語学習で学んだこと』

シリア・アラブ共和国大使館

Mr. Feras ALATTRASH

フィラス・アルアトラッシュ 様

皆さんこんにちは。私はフィラスです。2年くらい前から日本語の勉強を始めました。いつかもっとスラスラと話せることが私の夢です。一番大切なのは、私にとって、シリアと日本の文化や人々のことをいろいろと話せるようになることです。去年もここでスピーチをしました。わからないまま日本語を丸暗記しました。本日は、その後、日本語を勉強して、わかったことについて話したいです。

私は日本語を勉強して、日本についての文化的な視点や知識が大きく広がりました。日本語を知らない私は、無意識に日本語で書いてあるものは全て無視していました。まるで、文字が霧の中に目隠しされているようでした。でもそれは、ひらがなを学び、カタカナを学び、さらに少量の漢字を習うにつれて晴れて行きました。出かけた先々で目に入る日本語を理解することができるようになってきたからです。ずっと入口だと思っていたところが出口だったと気がついたときはショックでした。駅の階段で上りと下りも反対でした。

そして、真実は見ただ目ではないということも知りました。家族で楽しんでいた家の近くの素敵な公園は、実は墓地でした。その墓地の中にも、素敵なお店がありました。素晴らしい石の彫刻でした。一つ買って、家に飾りたかったのです。日本人の友達には「駄目だよ、それはお墓だから。」と言われました。このような経験は、ラテンのアルファベットを使う国ではできません。

ですから、皆さん、アラビア語を学んでみませんか。私が日本語を学んだことと同じような経験をすることをお祈りします。ぜひシリアに来てください。一番に多くアラビア語を学ぶことができる所です。この11年に及ぶテロリストとの戦いに勝利し、また元の美しく、安全で、心暖かい国が帰ってきました。

最後に、私の日本語の勉強は、私の家族のサポートなしではありえません。また、シリア大使館さんと私の先生に感謝いたします。そして、本コンテストの方々に感謝申しあげて、このスピーチを終わります。ありがとうございました。



## 『私の発見の旅路：メロンパンから「遠慮の塊」へ』

アルメニア共和国大使館

Dr. Sargis SHIRKHANYAN

サルキス シルカニャン 様

皆様こんにちは。駐日アルメニア大使館3等書記官のサルキス シルカニャンと申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は2018年から2019年まで、大阪にある関西国際交流基金センターで8ヶ月間、外交官や公務員のための日本語コースに参加しました。それ以前、日本について多くのことは知りませんでした。私が日本について知っていたことといえば、私の祖国から遠く離れており、日本が私にとって完全に異なる世界になるということだけだったのです。

ある程度それは真実でした。日本はその特徴的な違いによって、訪問者を驚かせる独特な国で、少なくとも1目見ただけでは、その違いを理解することはできません。しかしこのコースのおかげで、私は日本について多くのことを学び、その違いの認識が変わりました。そして、このことによって、私の発見の旅路が開かれ、アルメニア人の私にとって、実は日本がそれほど異質なわけではなく、文化的にも遠くないことを理解したのです。

私の発見の旅は、日本滞在2日目に、研修所のすぐ隣にあるコンビニでメロンパンを食べたところから始まりました。初めてメロンパンを食べた私は、それがどこから来たものなのか、真に日本的なものなのか、突き止めたくなるほど気に入りました。後になって、メロンパンを最初に考案したのが、アルメニア人のパン職人のオバメスタンという人物であると知って、私は大変驚きました。このパンは、彼が1920年代初頭に日本の帝国ホテルで働いていたときに生まれたものだったのです。

その数週間後、新幹線で東京に研修旅行に行きました。車内でお弁当を食べていたとき、突然、窓から山が見え、私はほんの一瞬だけアルメニアに引き戻されました。私は自分自身が今アルメニアにいて、現在はトルコ領内にあるものの、アルメニア人にとって神聖なアララト山の小さい峰を見ているかのようなようでした。もちろん実際に窓から見えたのはアララト山ではなく富士山でしたが。とにかく、この二つの山は本当に紛らわしいほど似ているのです。後で写真を見せますね。

数秒間のアルメニアへの旅のあと、私は東京に到着しました。翌日、日本銀行を見学した

際に、渋沢栄一の名前を初めて耳にしました。日本近代史、特に日本の経済における彼の役割は有名ですが、1920年代初頭に、彼がアルメニア人大虐殺から逃れた多くのアルメニア人難民を救うために、アルメニア救済基金の設立をしたことはあまり知られていません。私にもこのことは大きな発見でした。

数ヶ月経ち、構想を得た私は大使館で働くために東京に引っ越ししました。大使館の玄関で最初に見たのは、史上初の女性外交官とされるダイアナ・アプカーの写真でした。彼女は横浜に住んでいたアルメニア人で、100年前にアルメニア初の駐日外交代表になりました。また、後になって、戦後初の駐日ソ連大使テヴォシアンさん、初の駐日イラン大使マセヤンさんもアルメニア人だと知りました。

その後、ある日、大阪時代の先生という人たちに夕食に招待されました。刺身を食べたのですが、よくあるように、最後の一切れが残ったとき、行儀よく誰も食べようとしません。それは文字通り、遠慮の食べ物の欠片を意味するアルメニアの決まり文句、アモティティカでした。先生たちにこのアルメニアの決まり文句を披露しましたが、彼らは日本語にも似たような決まり文句、遠慮の塊があると言って私を遮りました。さらに、彼らはその決まり文句が日本起源だと私に納得させました。

私の発見の旅路は、日本についての私の認識を大きく変えたこのようなお話であふれています。しかし、最も大切な発見は、アルメニアと日本の関係を知れば知るほど、祖国の歴史や文化、さらにはその一部である私自身を深く知ることになるということでした。だから、より多くのアルメニア人や日本人が、両国の絆を深め、独自の発見の旅をすることを願って、このスピーチを締めくくりたいと思います。

世界は、私達が思っているよりも遥かに小さく、世界中の国々は、その歴史、希望と距離に関係なく、そういう点よりも、今日伝え類似点や共通点の方がずっと多いのです。そして、外交官の役割の一つは、この種の小さな、ときには非常に個人的な発見をすることだと信じています。ご清聴ありがとうございました。

写真はアララト山と富士山の比較です。皆さんはどっちがどっちかわかりますか？



## 『オリンピックからの響き』

オランダ王国大使館

Mr. Theo Peters

テオ・ペータス 様

「オリンピックからの響き」

東京タワーのもとにあるオランダ大使館のペータスと申します。どうぞよろしくお願い致します。

さて、皆さん、アントン・ヘーシンクという名前を聞いたことがありますか？菅元総理大臣は今年の6月にヘーシンクについて国会で話しました。そして昭和天皇も彼のことはよくご存じでした。ファンでした。ヘーシンクはオランダの柔道家でした。1964年の東京オリンピックで重量の無差別級で金メダルを獲得しました。彼の優勝はもちろんオランダ人は非常に嬉しいと思っておりましたが、多くの日本人の印象にも強く残っています。そして、あの柔道がオリンピックの公式種目として世界に認められる出来事でした。最後には私個人の人生にも大きな影響を与えました。

当時のオランダの新聞に面白い話がありました。オリンピックの少し前、オランダの大使が公共の歓迎会で昭和天皇とお会いしました。「アントン・ヘーシンク選手があなたの国に金メダルをもたらすことを願っています」と昭和天皇が大使に贈られました。大使は「お言葉でございますが天皇陛下、日本の選手が王者になる方が、日本の国民は喜ぶのではないのでしょうか」と伺いました。天皇陛下は首を横に振り、「いいえ、アントン・ヘーシンクが優勝したら、私個人大変嬉しく思います。私のことはヘーシンク選手に伝えてもらえますか」と続けました。このような温かい言葉を聞いて、ヘーシンクは「天皇陛下のご期待に応えられるように頑張ります」と丁寧に答えました。

あのオリンピックイヤーの今年、オランダ大使の公邸で、あのヘーシンクの小さな展示会を開催しました。そこでは、あのヘーシンクが、神永選手との当時のあの決勝戦で実際に着用した柔道着を展示しました。柔道講道館の会長や日刊スポーツニュースの元記者宮沢さんを、大使館に招待しました。当時宮沢さんは、取材を通して、神永選手に対する日本国民からの大きな期待とプレッシャーを、いっぱい感じていました。しかし、決勝戦でヘーシンクが勝った途端、シーンという沈黙が武道館に響き渡りました。日本人が深い衝撃を受

けました。その途端、柔道がオリンピックスポーツになりました。

しかし、宮沢さん自身はショックのあまり、次の日までは話すことも記事を書くこともできなかつたそうです。翌朝は日刊スポーツニュースから電報が届き、記事にはヘーシンの勝利だけではなく、終盤からの行動についても書くように連絡がありました。それは、どういうことかと言いますと、ヘーシンが神永選手に寝技を決め、審判がその試合の終わりを告げました。その途端、ヘーシンのファンが喜びのあまり一斉に畳に上がろうとしました。すると、ヘーシンはそのファンに向けて、大きな手を広げこのようなジェスチャーを示しました。このジェスチャーにより、ファンの行動は一瞬にして止まりました。勝利の喜びを感じている瞬間にも、ヘーシンは審判と相手に敬意を示しました。彼は柔道の技がうまいだけではなく、柔道の心も深く理解していることが明らかになりました。しかし、このヘーシンの行動は宮沢さんの記事により、日本の心に深く刻まれました。ヘーシンはこのスポーツマンシップを通して、日本人の心を感動させ、そしてオランダとの親善にも大きく貢献しました。それは我々外交官には到底真似のできないことです。

私はヘーシンの金メダルと個人的な繋がりもあります。東京オリンピックの時には、私は3歳でした。テレビでオリンピックの試合を見ていた私の両親は、ヘーシンの優勝に感激して、ひ弱な息子をこんな選手のように強く育てたいと思っていました。そして、3歳の私を柔道の道場に通わせました。

柔道のクラスは時々は大変でしたが、面白かった思い出もあります。道場の壁にはポスターがありました。このポスターには、柔道の技の絵と日本語の説明がローマ字で書いてありました。もちろん大外刈り、出足払い、内股などの技の絵を見て、もちろん私はその意味がわかりませんでした。しかし、どうもその不思議な言葉には、秘密の力が隠れているような気がして、ジュウドウコウドウカン、ガツカイダイニッポンと、ハリーポッターのようにおまじないとして、子供同士で大きな声で言い合っていました。やっぱり子供の私には、日本語は不思議で面白かったでしょう。

この経験は留学先を選ぶときの大きなキッカケとなりました。子ども時代に撒かれた花が育ち、それが大学時代に花開き、そして留学生として日本に来ました。それは私の人生には1番最も大きな決断だったんですね。日本でノルウェー人の妻と出会いまして、そして日本の留学経験がキッカケとなって、あの外交官になりたい気持ちが湧いてきました。

さあ、皆さん。このスピーチのポイントは一体何でしょうか？ヘーシンの金メダルからいろんな方面に思いがけない効果が生まれるとわかってきました。日蘭関係の親善から私個

人の人生までも。それはオリンピックの力だと私は思います。

さあ、今年はどうでしょうか。今年の場合はやっぱり、東京 2020 の開催は日本の皆さんには簡単ではなかったと思います。こんな中開催していただきまして、本当にありがとうございます。今年のオリンピックからもまた新しい効果が生まれて、美しい花が咲くことでしょう。もしかしたら、スケートボードの西矢紅葉選手からインスピレーションを受けて、将来にこのスピーチコンテストに参加する外交官が出てくるかもしれませんね。

ご清聴どうもありがとうございました。



## 『選択された東京』

ロシア連邦大使館

Ms. Khaiznikova Alena

ハイジニコワ・アリョーナ 様

本日スピーチをする機会を与えていただきまして誠にありがとうございます。

最初はコンテストの準備を始めた時、当時の建築物、伝統、人など、私が大学生時代から日本に惹かれてきた全てのものについてお話したいと思っていました。日本、特に東京は魅力的な物や場所に溢れていて、どこに行っても歴史の息吹を感じています。これは本当にすごいと思いませんか？

しかし、今日はその話をするのをやめました。私の家族の一員がなくなりました。私は当時から東京にいました。コロナの影響でロシアに帰ることができず、家族を本当に応援することが出来ないまま、ここで祖母の死を悼みました。今回の悲しい出来事で考えさせられたことがあります。だから、今日は人と東京の関係性についてお話したいと思っています。

日本に来たばかりの時や、まだ学校や大学で勉強して激しい現実には直面していない時は、日本の魅力を語るのには難しいことではありません。東京との出会いは初恋のようで、息を呑むほどの感動があります。すべての物が美しく見え、一緒に散歩したり、映画を見たり、自転車に乗ったり、旅行することを夢見たりします。誰もが覚えているのではないのでしょうか。素晴らしい時間ですね。

外国人の皆さんは東京に来たばかりの時、そうだったのではないのでしょうか。上野公園に行きましたか？東京タワーの展望台に登りましたか？桜の木の下でビールを飲みましたか？もちろんコロナ禍で禁止される前の話ですが。そうでしょうか？みんなが経験したことがあるでしょうか？そして、私たちはみんな東京に恋をしていて、魅力的だったからそうしたんです。

しかし、遅かれ早かれ、この初恋の期間も終わりを迎え、人は日常生活に埋没してしまいます。スーパーに行っても、もはや驚くことなく必要なものだけを手に入れて急いで帰ります。展覧会に行くよりも部屋の掃除をします。これは決して悪いことではありません。人は囲まれている環境に慣れてしまい、最初に感じた気持ちをだんだん失います。ちょっと飽きてしまいますね。そしてこのモヤモヤした時間、どこか遠くの家族や友人のところで何か大

変なことが起こったら、恋人との関係の危機が近づきます。

人だけではなく、都市とも同じことになります。この時点からラブストーリーの展開には、いくつかのシナリオがあります。特にコミットメントがない場合は、東京を離れて諦めることができます。忘れて、二度と戻って来ません。これはとても悲しいことですね。もしくは、しばらく遠出をして、言わば関係を1度中断することができます。関係は強くならないがきつと維持されるでしょう。

しかし、私が選んだ3つ目の道もあります。私は東京と2人きりになることを選びました。もちろん精神的には大変でしたが、街は私に予想外のことをしてくれたんです。居心地が良くなり、理解してもらい、親切な新しい人たちに囲まれ、泣きたい時には笑わせてもらったんです。例えば、通りすがりの人が話しかけてきて面白い話を聞けました。ある日、私をドライバーのように止めてみたこともありました。東京の神様が支えてくれているように感じました。

つまり、興味深いのは、なぜ日本を選ぶのかではなく、なぜ、そこまで犠牲を払っても、毎年日本を選び続けるのかということです。友人や大好きなペットと別れる人も、現地の食べ物になれない人も、子どもや孫に会うことができない人も。しかし、その犠牲があったからこそ、この街の意味が私たちにとってより大きくなるのです。

また、外国人だけではなく、ほかの都市から移り住んできた日本人も同様だと思います。みなさんも私と同じように、この街との関係が友好的であることを心から願っています。

ありがとうございました。



## 『未来の平和のためには、互いの文化を理解することが必要です』

アメリカ大使館

Mr. Garvey McIntosh

ガーヴィー・マッキントッシュ 様

私の名前はガーヴィー・マッキントッシュです。現在、NASA の代表として東京で働いています。今日は私が日本の皆さんとの交流から学んだことをお話したいと思います。それは、異国間の文化的理解が平和な関係を築くということです。

私は 1994 年、長崎に英語の教師として初めて来日しました。長崎に行く前は、過去の日米戦争の歴史から、長崎の人々は、おそらく私に対して、敵意持っているだろうと思って、少し不安でした。しかし、長崎での生活で、私の不安は一気に消えました。長崎の人たちは本当に親切で、地元のいろいろな文化習慣、方言を教えてくださいました。皆さんは、長崎弁がわかりますか？例えば、「なんばしよっと？」、これは「何をしてるの？」という意味です。長崎に行った 4 年間で、私の日本語はすっかり長崎弁になりました。

この経験から、私は日米関係だけではなく、広い国際関係の仕事をしたいと思い、2003 年カルフォルニア州モントレイ大学院を卒業し、その後 NASA に就職しました。そして、ワシントン DC の NASA 本部で 14 年間働いた後、2017 年から東京のアメリカ大使館で、NASA 代表として今に至っています。

今回の日本の生活は長崎での生活とかなり違います。私は結婚して、現在 8 歳の息子、グレイソンと 11 歳の娘アニャの 2 人の子供がいます。息子はスポーツが大好きで、日本人の友達とバスケットボールやサッカーをしています。でも、彼の一番興味があるスポーツは、相撲です。彼はよく私に「お父さん、どうして日本のお相撲があんなに大きいのか。」と聞きます。私はお相撲さんたちはたくさん食べているからだと答えました。だから、グレイソンとちゃんこ鍋を食べに出かけましたが、残念ながら彼の体重は全く増えていません。でも、私の体重は増えました。娘のアニャは、学校の活動として、伝統的な楽器である琴を毎晩練習しています。とても難しいそうですが、頑張っています。私の長崎での経験と同じように、2 人の今の貴重な体験や友達との出会いには、彼らの未来にとっても大切です。

次に、少し宇宙について話します。星出彰彦宇宙飛行士は、国際宇宙ステーションから 6

カ月ぶりに地球に戻ってきます。彼は小さい頃にアメリカを学んだことのある日本人で、宇宙でも国際人として活躍しています。NASA は現在、新しいアルテミス計画に取り組んでいて、近い将来、日本人宇宙飛行士が月面の上を歩いているかもしれません。

私、今日ここで平和を維持する意義、人と人との交流、そして文化的理解の重要性を教えてくれた日本の皆さん、特に長崎の人々に心から感謝します。また私の公務で子どもたちにいつも優しくしてくれる東京の人々にも感謝します。感謝の心とともに私のプレゼンテーションを終わります。ご清聴本当にありがとうございました。



## 『日本で出会った故郷の音楽』

ボリビア多民族国大使館

Ms. Claudia Gozalves

クラウディア・ゴサルベス 様

こんにちは。ボリビア大使館に勤めているクラウディア ゴルザベスです。  
私のテーマは日本で出会った故郷の音楽です。

私は8歳のときからクラシック音楽を学んで、バイオリンを弾きました。ずっとクラシックの世界にいましたけれども、18歳のときからボリビアの音楽を始めました。ボリビアのグループに参加して、小学校、中学校、高校生のために日本全国ツアーをやりました。たまには、一般講演やアンデス音楽、ボリビア音楽のファンのために、コンサートやパーティーをやりました。そのとき、アンデスのファンはボリビアの音楽はとても楽しく演奏していて、歌も上手だし、私より故郷の音楽をよく知っていました。それを見ていると、私は何でここまでこの音楽が好きなんだろうとすごく思いました。私はボリビア人なのに、まだ若かったかもしれないけれど、国に対しての気持ちはすごく軽かったのです。

24歳のとき、同じグループの日本人メンバーと結婚して日本に住むことになりました。日本に行くときはとても楽しみにしていましたが、住み始めるととても苦労しました。とても寂しくて、日本語もわからないしとてもつらかったです。そのとき、ボリビアの音楽をとっても聞きたくなって、初めて自分からいろいろな曲を聞いて、ボリビアの楽器も始めました。ボリビアの楽器、チャンを始めました。

そのとき、なんで日本人は、ボリビアの音楽が好きなのかがよくわかりました。あのパワー、優しさ、寂しさが日本とすごく似ていると思いました。だから、私は日本に来たおかげで、私の音楽だけではなく、私自身と出会いました。なぜかというと、故郷の音楽はずっと心の中にあっただのがわかったからです。

今はボリビアの音楽も演奏してますし、日本語の音楽もやっています。沖縄の音楽も大好きで、三線を弾いたりします。それから森山直太朗の大ファンです。

これからも日本とボリビアの繋がりを大事にしたいし、日本にいるボリビア人として、自分にできることを頑張りたいと思っています。ありがとうございます。



## 『何が私を日本に連れてきた のでしょうか』

バングラデシュ人民共和国大使館

Mr. Syed Nasir Ershad

ソヨド ナシール エシャド 様

バングラディッシュ大使館の経済担当特使ソヨド ナシール エシャドです。

昨年 12 月に日本に来ました。この美しい国に赴任できたことをとても誇りに感じていません。今回が初めての来日ではありません。20 年前、公共政策の修士号を取得するために、日本の大学院で学びました。何が私を何度も日本に惹き付けるのでしょうか。

日本はバングラデシュの真の友人です。バングラデシュは 1971 年に独立しました。翌年、日本はいち早くバングラデシュと外交関係を樹立した最初の国の一つです。来年 2022 年には外交関係樹立 50 周年を迎え、様々な祝賀行事を計画しています。

日本はすでにバングラデシュの開発プロセスに深く関与しています。道路、通信、エネルギー、港、空港など、多くの開発プロジェクトが日本の支援で実施されています。現在バングラデシュには、約 320 の日本企業が進出し、その数は増え続けています。首都ダッカの近くに、日本企業専用の経済特区を作っています。バングラデシュへの投資を促進することは、利用客にとってウィンウィンの関係です。

20 年前に日本に留学したときから、私はこの国が大好きです。この国に住むことができ、私も家族もとても喜んでいきます。

しかし、今回私はある課題に直面しています。それは言葉の壁です。前回学生であり、大学の授業は英語でしたので、日本語を学ぶ機会がありませんでした。今回の任期は 4 年です。日本の人々や社会と広く関わりたいと思います。日本語をスラスラ話すことができれば、仕事や生活がもっと楽しくなるでしょう。この 4 年間で、少しでも日本語が上達するよう努力したいと思っています。

家庭では常に私を助けてくれる妻がおり、また 2 人の娘の父親であることに誇りを持っています。できるだけ家族と一緒に旅行をする時間を持つようにしています。今年の春、妻と娘を連れて栃木県の足利フラワーパークに行きました。その公園は、巨大な敷地で様々な花の見事な美しさを見ることができます。奇跡の藤と呼ばれる樹齢 140 年以上の巨大な藤の花

が、公園の中央に位置しています。その光り輝く存在感は圧倒的です。

最後に、20年前に日本で聞き、今でも懐かしく甘くて切ない日本の歌で、私のスピーチを締めくくりたいと思います。ご存知の方は一緒に歌ってください。

(♪上を向いて歩こう)

ありがとうございました。



## 『東京 2020 の思い出』

オーストラリア大使館

Mr. Tom Wilson

トム・ウィルソン 様

皆さんこんにちは。

スポーツ好きな自分にとっては、オリンピック・パラリンピックは4年に一度訪れる楽しみです。シドニーオリンピックのときも、私はシドニーに住んでて大学生でした。ですので、多くの競技を自分の目で見る事ができて、直接オリンピック・パラリンピックの雰囲気味わうことができました。ですので、東京に赴任することが決まったときに、非常に嬉しかったです。コロナで東京2020が開催できるかどうかはちょっと不安でしたが、テレビで開会式を見たときは、本当に感動しました。

今になって振り返ってみると、オリンピック・パラリンピックの思い出がたくさんあります。その一つは、オーストラリアのソフトボールチームです。オーストラリアでは、ソフトボールは割とマイナーなスポーツで、自分はオリンピックの前は1回も試合を見たことがありませんでした。それにあんまり興味もありませんでした。そんなソフトボールの代表が、日本が受け入れる初の外国選手団として6月の中旬に来日し、太田市で事前合宿を行いました。コロナ禍で外国の選手団を受け入れることで、ずいぶんそういう不安があったと思うんですけれども、大田市の皆様が、素晴らしいおもてなしをしてくださいました。近くの幼稚園の子どももグラウンドに来て、選手たちにオーストラリアの国歌を歌ってくれて、それが全国的にニュースになりました。

開会式の2日前のオリンピックの最初の競技もソフトボールでした。しかもそれが、オーストラリア対日本の試合で、福島市行われました。私は運がよく大使とともにその試合を見に行くことができ、まさに復興オリンピックを感じさせる場面でした。オーストラリアの選手はその試合で本当に頑張ったんですけれども、日本の選手が圧倒的に強くて、オーストラリアは完敗しました。その試合からの帰り、自動販売機で、福島県名物の桃を食べてオーストラリア大使と一緒に食べたんですけれども、それがものすごく美味しかったです。

ソフトボールの決勝戦で、日本がアメリカを破り金メダルを獲得しました。オリンピック

の前、ソフトボールのルールさえ知らなかった自分が強く日本を応援して、上野投手、日本のエースとキャプテンの大活躍にとっても感動しました。実はオーストラリアも金メダルを目標としていましたが、残念ながら**6位**で終わりました。でもオーストラリアのエースとキャプテンのステイシー・ポーターが、オリンピックというスポーツの最大の舞台で、大好きなソフトボールができたっていうことは、何よりも嬉しく、日本の皆様に感謝していると述べていました。私もコロナ禍の不安を乗り越えて、素晴らしい東京**2020**を開催した日本の政府と国民に大変感謝しております。ご清聴ありがとうございます。

## ■表彰式 審査結果講評

### 【司会】

それでは、これより表彰式に移っていきたいと思います。

今回は外務大臣賞1名、文部科学大臣賞を1名、文化庁長官賞1名、審査員特別賞2名となります。審査員特別賞2名からご紹介をしていきますが、その前にコンテストの総評を、審査委員長の村島様よりお願いしたいと存じます。では村島様、お願いいたします。

### 【村島】

今回、審査委員長を仰せつかりました村島です。

今日は菊香る文化の日、11月3日、しかも秋晴れの良い天気の中を、長時間にわたって、このスピーチコンテストに参加いただきまして誠にありがとうございました。

皆さん方、素晴らしいスピーチですね。審査員一同いろいろと感心したり、びっくりしたりということで驚いております。今年の、これは世界的なものですけども、コロナ禍、不自由な生活というようなことで、非常に日本にいて、例えばお国で大事なことがあってもですね、すぐには帰れないという非常に不自由な中でもですね、皆さん、非常に前向きに暮らしているというか、外交官活動もそうですし、日常の活動でも、非常にコロナに負けずにですね、前向きに暮らしていることがよくわかりました。

そして7月から8月にかけて行われました2020のオリンピック・パラリンピック大会。ちょうど日本ではこれらの第5波で、感染者数もどんどん増えている中で、はっきり言って日本の国内でも意見が分かれていたわけですね。いわゆる世論が分かるといいますか。多いときではやめた方がいいんじゃないかっていう人が半分以上になったときもあるかと思えます。そういう中で、外交官の皆さん、2020オリンピック・パラリンピックを前向きに捉えていただいて、非常に母国を応援しながらも日本のことも応援していただいたということで、やっぱり開催してよかったのかなという風な結論になっております。

そういう中でオリンピックがあり、日本での生活があり、という体験談をお披露していただく中で、実は、私というか、我々も知らなかった新しい事実を知ったということで、大変勉強になりました。例えば、日本のメロンパンですね。アルメニアの人が教えてくれた、というようなこととか、あるいは1964年の前の東京オリンピックのときに、昭和天皇がヘーシンクを応援していたと。そういうような、新しい知りもしなかった、今日初めて聞くようなことがたくさんあって、わりと我々にとっても大変勉強になりました。

そして皆さん方、日本に留学された方もいるでしょうけれども、初めての方もいらっしゃるということで、日本に来る前は遠い外国から見ると、日本は東洋の小さな島国ということで、遠い存在だなという感じがしていたという方も多いかと思います。また、日本に来られてもですね、日本語はあまり上手じゃないんで、日本人たちと話ができないので、やっぱりちょっと何か疎外感といいたいでしょうか、遠い感じだなというふうに受けてまとめていらした方もたくさんあったかと思います。

そういう中で、積極的にやはり外交官ですから、自分の方から声をかけて、いろんな方々と接していったということですね。具体的には大阪の岸和田に行ってですね、岸和田弁を習ったと、地車祭りに参加したとかね。あとは長崎に行って、長崎の原爆という問題があるんで、ちょっとこわごとと長崎の人たちと接していたら、親切に長崎弁教えてくれたとか、そういうような積極的な体験から、遠かった日本というものを身近に感じたという方が多くて、私としても日本人としても大変嬉しく感じました。

ということで、皆さんもうほんと甲乙つけがたいスピーチの内容だったんですけども、これから審査結果を発表しますので、お楽しみにお待ちください。

どうも今日はありがとうございました。

第24回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021  
審査員

	氏 名 (敬称略順不同)	所 属
1.	村 島 章 恵	NHK エデュケーショナル デイレクター
2.	イムティアズ・アハマド 閣下	パキスタン・イスラム共和国大使館
3.	クルマンセイト・バトルハン公使参与	カザフスタン共和国大使館
4.	津 田 陽 子	外務省大臣官房文化交流・海外広報課長
5.	圓 入 由 美	文化庁国語課長
6.	堀 江 さゆみ	NHK 国際放送局・主幹
7.	日下部 禧代子	港区国際交流協会 理事
8.	太 田 貴 二	港区国際化・文化芸術担当課長
9.	関 口 明 子	国際日本語普及協会 理事長
10.	エリック フランシス	ビジネス・ブレイクスルー大学院教授

## コンテスト 最終結果

		国 名	氏 名
1	外務大臣賞	アルメニア共和国大使館	<b>Dr. Sargis SHIRKHANYAN</b> サルキス シルカニャン 様
2	文部科学大臣賞	オーストラリア大使館	<b>Mr. Tom Wilson</b> トム・ウィルソン 様
3	文化庁長官賞	カナダ大使館	<b>Ms. Lisa Mallin</b> リサ・マリン 様
4	審査員特別賞	オランダ王国大使館	<b>Mr. Theo Peters</b> テオ・ペータス 様
5	審査員特別賞	アメリカ大使館	<b>Mr. Strader Payton</b> ストレイダー・ペイトン 様

「第 24 回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021」表彰式

◆審査員特別賞◆



◆審査員特別賞◆

アメリカ大使館  
Mr. Strader Payton  
ストレイダー・ペイトン 様  
プレゼンター：  
村島 章恵 様

◆審査員特別賞◆



◆審査員特別賞◆

オランダ王国大使館  
Mr. Theo Peters  
テオ・ペータス 様  
プレゼンター：  
イムティアズ・アハマド 閣下

◆文化庁長官賞・杯◆



◆文化庁長官賞・杯◆

カナダ大使館  
Ms. Lisa Mallin  
リサ・マリン 様

プレゼンター：  
圓入 由美 様

◆文部科学大臣賞・杯◆



◆文部科学大臣賞・杯◆

オーストラリア大使館  
Mr. Tom Wilson  
トム・ウィルソン 様

プレゼンター：  
日下部 禧代子 様

◆外務大臣賞・杯◆



◆外務大臣賞・杯◆

アルメニア共和国大使館  
Dr. Sargis SHIRKHANYAN  
サルキス シルカニャン 様

プレゼンター：  
津田 陽子 様

## 1998～2021年各国大使館員日本語スピーチコンテスト上位入賞者一覧表

回・年度	賞・杯	スピーチタイトル	出場者氏名	国名
第1回 1998年	第1位	『日本の「居酒屋」さん』	ヴォルフガング・ボックホルト	ドイツ
	第2位	『月の裏側は奇麗でしょう』	イエルラン・B.コージャタエフ	カザフスタン
	第3位	『テレビドラマ「クリスマス・ケーキ」の女性像』	マリイ・クレール・ジョイス	イギリス
第2回 1999年	外務大臣賞・杯	『私のカルチャーショック』	マーラ・マイヤズ	イギリス
	第2位	『内なる故里』	アルフレッド マグルビー	アメリカ
	第3位	『日本人に教えられた事』	ルイス・ラウル・クリエル・ルイス	メキシコ
第3回 2000年	外務大臣賞・杯	『日本語は役に立つか』	スネジャナ・ヤンコヴィッチ	セルビア
	文部大臣賞・杯	『日本人と時間』	クレア・オールプレス	イギリス
	第3位	『部屋探し物語』	トム・ダウリング	オーストラリア
第4回 2001年	外務大臣賞・杯	『私の日本人家族』	石 澤毅	中国
	文部大臣賞・杯	『日本の結婚よ、めでたし、めでたし』	ジュニア・ルイズ・ベイ	オーストラリア
	文化庁長官賞・杯	『日本文化にどっぷり浸る』	サイモン・ウッド	イギリス
第5回 2002年	外務大臣賞・杯	『意味のない趣味の物語』	ダイニス・ペトラス・カマイティス	リトアニア
	文部大臣賞・杯	『お正月の旅』	セルゲイ・チロノフ	ロシア
	文化庁長官賞・杯	『歴史は繰り返す』 HISTORY REPEATS ITSELF	ジャイルズ・リーパー	イギリス
第6回 2003年	外務大臣賞・杯	『日本人とのコミュニケーション』	ケック・チー ハウ	シンガポール
	文部大臣賞・杯	『東京が江戸となる日』	ファビアン・フィエスキ	フランス
	文化庁長官賞・杯	『「ワールド・カップ」以後の日本生活』	パク・ヨンヘ (朴 英蕙)	韓国
第7回 2004年	外務大臣賞・杯	『ある島国のこと』	シントン・ラービセートバン	タイ
	文部大臣賞・杯	『日本の国際化』	ティヤナ・ズドラブコビッチ	セルビア
	文化庁長官賞・杯	『嫌いだった日本』	ハディ・チャーヨノ	インドネシア
第8回 2005年	外務大臣賞・杯	『アジアの中の日本とモンゴル』	エルデネツォグト・サラントゴス	モンゴル
	文部大臣賞・杯	『日本のポップカルチャーとその魅力』	蔡 山帝(サイ サンティ)	中国
	文化庁長官賞・杯	『十六世紀のイエズス会日本語言語学について』	ユルン・ラマース	オランダ
第9回 2006年	外務大臣賞・杯	『ア・イ・ツ・チ』	タチアナ・ゴロホフ	ロシア
	文部大臣賞・杯	『音があふれる国・日本』	トレシー・マッケンジー	イギリス
	文化庁長官賞・杯	『キルギス型環境社会』	バクティベック・アサノフ	キルギス
第10回 2007年	外務大臣賞・杯	『むすこへの手紙』	エルデネツォグト・サラントゴス	モンゴル
	文部大臣賞・杯	『A dream comes true』	ムハンマド・カドリ	エジプト・アラブ
	文化庁長官賞・杯	『日本の女性』	チョウ キン	中国
第11回 2008年	外務大臣賞・杯	『日本人の味覚』	ハジジ・ナビガ	モロッコ
	文部大臣賞・杯	『日本語の生活』	エミリ・ブラッドニー	イギリス
	文化庁長官賞・杯	『日本が教えてくれるルーマニア』	ディアナ・ティハン	ルーマニア
第12回 2009年	外務大臣賞・杯	『私はどこにいても外国人です。』	クルマンセイト・バトルハン	カザフスタン
	文部大臣賞・杯	『和製漢語:中国、日本、世界をつなぐ絆』	ウン シュ	中国
	文化庁長官賞・杯	『歌舞伎が私に教えたこと』	ベトル・ホリー	チェッコ
第13回 2010年	外務大臣賞・杯	『郷に入れば郷に従え』	ジギヤン・クマル・タバ	ネパール
	文部大臣賞・杯	『チェコつと おどろおどろしい 下町散策』	ベトル・ホリー	チェッコ
	文化庁長官賞・杯	『1平方メートルの日本』	ファン・ジン(黄 錦)	中国
第14回 2011年	外務大臣賞・杯	『日本の新しいミラクル』	イサム・ブカーリ 博士	サウジ・アラビア
	文部大臣賞・杯	『身振り、手振り(Miburi, Teburi)』	ラディック・ティズキウイチ	ポーランド
	文化庁長官賞・杯	『東日本大震災から学んだ自然と共存の道』	ヒョウ・ジュン(馮 淳)	中国
第15回 2012年	外務大臣賞・杯	『嫌われても人に生きる力を』	クルマンセイト・バトルハン	カザフスタン
	文部大臣賞・杯	『言葉の壁は本当に高いのか?』	カールマン・アンドレア	ハンガリー
	文化庁長官賞・杯	『忘れられた先駆者』	ニロディ・ロッシュニ	アメリカ
第16回 2013年	外務大臣賞・杯	『国境を越えた友情の絆』	ヤン・ジェンシン(楊 建興)	中国
	文部大臣賞・杯	『日本人のおもてなしの心』	マーガレット・マックロード	アメリカ
	文化庁長官賞・杯	『生きている鎖』	キシユ・グルグイ	ハンガリー
第17回 2014年	外務大臣賞・杯	『日本に来て驚いたこと』	マルタ・リディア・セラヤンディア・シスネロス大使	エル・サルパドル
	文部大臣賞・杯	『国境のない山、国境を越える科学』	マチュー・ピー	フランス
	文化庁長官賞・杯	『日本のウォシュレット』	ラジェシュ・ナヤク	インド
第18回 2015年	外務大臣賞・杯	『諦めない』	イサム・ブカーリ 博士	サウジ・アラビア
	文部大臣賞・杯	『日本の体験』	ニール・ギブソン	アメリカ
	文化庁長官賞・杯	『雨降って地固まる』	チョウ テン ヨウ	中国
第19回 2016年	外務大臣賞・杯	『世界を変える』	ファヒリディン・エルガシェフ	ウズベキスタン
	文部大臣賞・杯	『そうだ、床屋、行こう』	ジェレミー・エドワーズ	アメリカ
	文化庁長官賞・杯	『働く女性を支える笑顔』	クラジベコバ・ジェミリア	カザフスタン
第20回 2017年	外務大臣賞・杯	『Japan as my second homeland』	リャボワ・ビクトリア	ロシア
	文部大臣賞・杯	『似ているようで似ていないようで』	鄭 東根(ジョン・ドンゴン)	大韓民国
	文化庁長官賞・杯	『鉄道旅の思い出』	王 宏偉(オウ・コウイ)	中国
第21回 2018年	外務大臣賞・杯	『落とし物が難しい日本から思った事』	張 訳丹(チョウ・ヤクタン)	中国
	文部大臣賞・杯	『“関東”か“関西”、どちらが好きですか?』	ユセフ・アルタルケット	クウェート
	文化庁長官賞・杯	『気が付けば日本人になっていた私』	ダルケノフ・アイトス	カザフスタン
第22回 2019年	外務大臣賞・杯	『多言語話者は多重人格者! ? ~マルチリンガルは』	マリア ジュラフスカ	ポーランド共和国
	文部大臣賞・杯	『雨の日の露天風呂』	ジョン ビョン シク	大韓民国
	文化庁長官賞・杯	『インクルーシブな社会を目指そう!』	ジェイソン ハクワース	アメリカ
第23回 2020年	外務大臣賞・杯	『私と長崎そして日米宇宙開発』	ガーヴィー・マッキントッシュ	アメリカ
	文部大臣賞・杯	『ヒーローとは』	テオ・ペータス	オランダ王国
	文化庁長官賞・杯	『日本の製品を隠さないで!』	パメラ・ボンティアス	アメリカ
第24回 2021年	外務大臣賞・杯	『私の発見の旅路:メロンパンから「遠慮の塊」へ』	サルキス シルカニヤン	アルメニア共和国
	文部大臣賞・杯	『東京2020の思い出』	トム・ウィルソン	オーストラリア
	文化庁長官賞・杯	『オリパラアスリートの気づきから、私達の日常まで』	リサ・マリン	カナダ

# 各国大使館員日本語スピーチコンテスト賞杯獲得氏名

## 外務大臣賞・杯（2回目から）

回	年	大使館名	氏名	題名
1	1998	ドイツ連邦共和国 大使館	<b>Dr. Wolfgang Bockhold</b> ヴォルフガング ボックホルト 様	『日本の「居酒屋」さん』
2	1999	イギリス大使館	<b>Miss. Mara Myers</b> マーラ・マイヤズ 様	『私のカルチャーショ ック』
3	2000	ユーゴスラビア 連邦共和国大使館	<b>Ms. Snezana Jankovic</b> スネジャナ・ヤンコヴィッチ 様	『日本語は役に立つか』
4	2001	中華人民共和国 大使館	石 澤 毅 セキ・タクキ 様	『私の日本人家族』
5	2002	リトアニア共和国 大使館	<b>Mr. Dainius Petras Kamaitis</b> ダイニユス・ペトラス・ カマイティス 様	『意味のない趣味の物 語』
6	2003	シンガポール共和国 大使館	<b>Mr. KEK Chee How</b> ケック・チー ハウ 様	『日本人とのコミュニ ケーション』
7	2004	タイ王国大使館	<b>Mr. Singtong LAPISATEPUN</b> シントン・ラーピセートパン 様	『ある島国のこと』
8	2005	モンゴル国大使館	<b>Ms. Erdenetsogt Sarantogos</b> エルデネツォグト・サラントゴス 様	『アジアの中の日本と モンゴル』
9	2006	ロシア連邦大使館	<b>Ms. Tatiana GOROKHOVA</b> タチアナ・ゴロホワ 様	『ア・イ・ツ・チ』
10	2007	モンゴル国大使館	<b>Ms. Erdenetsogt Sarantogos</b> エルデネトソゴト・サラントゴス 様	『むすこへの手紙』
11	2008	モロッコ王国 大使館	<b>Mr. Nabigha Hajji</b> ハッジ・ナビガ 様	『日本人の味覚』
12	2009	カザフスタン 共和国大使館	<b>Mr. Batyrkhan Kurmanseit</b> クルマンseit・バトルハン様	『私はどこにいても 外国人です。』
13	2010	ネパール大使館	<b>Mr. Jigyan Kumar Thapa</b> ジギャン・クマル・タパ 様	『郷に入れば郷に従え』
14	2011	サウジ・アラビア 王国大使館	<b>Mr. Essam Bukhary</b> イサム・ブカーリ 様	『日本の新しいミラク ル』
15	2012	カザフスタン 共和国大使館	<b>Mr. Batyrkhan Kurmanseit</b> クルマンseit・バトルハン 様	『嫌われても人に生き る力を』

16	2013	中華人民共和国 大使館	<b>Mr. Jigyan Kumar Thapa</b> ヤン・ジェンシン（楊建興）様	『国境を越えた友情の 絆』
17	2014	エル・サルバドル 共和国大使館	<b>His Excellency Ms.Martha Lidia ZELAYANDIA Cisneros</b> マルタ・リディア・ セラヤンディア・シスネロス大使	『日本に来て驚いたこ と』
18	2015	サウジ・アラビア 王国大使館	<b>Mr. Essam Bukhary</b> イサム・ブカーリ 様	『諦めない』
19	2016	ウズベキスタン 共和国大使館	<b>Mr. Fakhridin Ergashev</b> ファヒリディン・エルガシエフ 様	『世界を変える』
20	2017	ロシア連邦大使館	<b>Ms. Riabova Victoriia</b> リャボワ・ビクトリア 様	『Japan as my second homeland』
21	2018	中華人民共和国 大使館	<b>Ms. Zhang Yidan</b> 張 訳丹（チョウ・ヤクタン）様	『落とし物が難しい日 本から思った事』
22	2020	ポーランド共和国 大使館	<b>Ms. Maria Zurawska</b> マリア ジュラフスカ 様	『多言語話者は多重人 格者！？～マルチリ ンガルについて考え る』
23	2020	アメリカ合衆国 大使館	<b>Mr. Garvey McIntosh</b> ガーヴィー・マッキントッシュ 様	『私と長崎そして日米 宇宙開発』
24	2021	アルメニア共和国 大使館	<b>Dr. Sargis SHIRKHANYAN</b> サルキス シルカニャン 様	『私の発見の旅路： メロンパンから 「遠慮の塊」へ』

各国大使館員日本語スピーチコンテスト賞杯獲得氏名				
文部科学大臣賞・杯（3回目から）				
回	年	大使館名	氏名	題名
1	1998	ユーゴスラビア 連邦共和国大使館	Miss. Snezana Jankovic スネジャナ・ヤンコヴィッチ 様	『日本で感動したこと』
2	1999	アメリカ合衆国 大使館	Mr. Alfred R. Magleby アルフレッド マグルビー 様	『内なる故里』
3	2000	イギリス大使館	Mr. Clare ALLBLESS クレア・オールブレス 様	『日本人と時間』
4	2001	オーストラリア 大使館	Ms. Jennifer Louise BEH ジュニファー・ルイズ・ベイ 様	『日本の結婚よ、 めでたし、めでたし』
5	2002	ロシア連邦大使館	Mr. Sergey CHIRONOV セルゲイ・チローノフ 様	『お正月の旅』
6	2003	フランス共和国 大使館	Mr. Fabien FIESCHI ファビアン・フィエスキ 様	『東京が江戸となる日』
7	2004	セルビア共和国 大使館	Ms. Tijana ZDRAVKOVIC ティヤナ・ズドラブコビッチ 様	『日本の国際化』
8	2005	中華人民共和国 大使館	Mr. Cai Shandi 蔡山帝（サイ・サンティ） 様	『日本のポップカルチ ャーとその魅力』
9	2006	イギリス大使館	Ms. Tracy Mackenzie トレシー・マッケンジー 様	『音があふれる国・ 日本』
10	2007	エジプト・アラブ 共和国大使館	Mr. Mohamed Qadry ムハンマド・カドリ 様	『A dream comes true』
11	2008	イギリス大使館	Ms. Emily Bradney エミリー・ブラッドニー 様	『日本語の生活』
12	2009	中華人民共和国 大使館	Mr. Wang Shu ウン シュ 様	『和製漢語：中国、日本、 世界をつなぐ絆』
13	2010	チェッコ共和国 大使館	Mr. Petr Holy ペトル・ホリー 様	『チェコっとおどろ おどろしい 下町散策』
14	2011	ポーランド共和国 大使館	Mr. Radek Tyszkiewicz ラディック・ティズキウィチ 様	『身振り、手振り (Miburi, Teburi)』
15	2012	ハンガリー共和国 大使館	Ms. Andrea Kalman カールマン・アンドレア 様	『言葉の壁は本当に高 いのか？』

16	2013	アメリカ合衆国 大使館	Ms.Margaret MacLeod マーガレット・マックロード 様	『日本人のおもてなし の心』
17	2014	フランス大使館	Mr. Matthieu Py マチュー・ピー 様	『国境のない山、 国境を越える科学』
18	2015	アメリカ合衆国 大使館	Mr. Neil Gibson ニール・ギブソン 様	『日本の体験』
19	2016	アメリカ合衆国 大使館	Mr. Jeremy Edwards ジェレミー・エドワーズ 様	『そうだ、床屋、行こう』
20	2017	大韓民国大使館	Dr. Jeohg Dong-Gun 鄭 東根 (ジョン・ドンゴン) 様	『似ているようで似て いないようで』
21	2018	クウェート国 大使館	Mr. Yousef Altarkit ユセフ・アルタルケット 様	『” 関東” か” 関西”、ど ちらが好きですか?』
22	2020	大韓民国大使館	Mr. Byungsik Jung ジョン ビョン シク 様	『雨の日の露天風呂』
23	2020	オランダ王国 大使館	Mr. Theo Peters テオ・ペータス 様	『ヒーローとは』
24	2021	オーストラリア 大使館	Mr. Tom Wilson トム・ウィルソン 様	『東京 2020 の思い出』

# 各国大使館員日本語スピーチコンテスト賞杯獲得氏名

## 文化庁長官賞・杯（4回目から）

回	年	大使館名	氏名	題名
1	1998	カザフスタン 共和国大使館	<b>Mr. Yerlan B. Kozhatayev</b> イェルラン バウダールバクコジヤタエフ 様	『月の裏側は奇麗でしょう』
2	1999	カザフスタン 共和国大使館	<b>Mr. Yerlan B. Kozhatayev</b> イェルラン バウダールバクコジヤタエフ 様	『ぬちドウ（命は）たから』
3	2000	中華人民共和国 大使館	<b>Ms. Liu HONG</b> 劉 宏（リュウ コウ） 様	『外国人の目から見た日本』
4	2001	イギリス大使館	<b>Mr. Simon WOOD</b> サイモン・ウッド 様	『日本文化にどっぷり浸る』
5	2002	イギリス大使館	<b>Mr. Giles LEVER</b> ジャイルズ・リーバー 様	『歴史は繰り返す HISTORY REPEATS ITSELF』
6	2003	大韓民国大使館	<b>Ms. PARK Young-Hae</b> パク・ヨンヘ（朴英恵） 様	『「ワールド・カップ」以後の 日本生活』
7	2004	インドネシア 共和国大使館	<b>Mr. Hadi TJAHJONO</b> ハディ・チャーヨノ 様	『嫌いだった日本』
8	2005	オランダ王国 大使館	<b>Mr. Jeroen Lamers</b> ユルン・ラマース 様	『十六世紀のイエズス会 日本語言語学について』
9	2006	キルギス共和国 大使館	<b>Mr. Baktybek Asanov</b> バクティベック・アサノフ 様	『キルギス型環境社会』
10	2007	中華人民共和国 大使館	<b>Ms. Zhao Xin</b> チョウ キン 様	『日本の女性』
11	2008	ルーマニア 大使館	<b>Ms. Diana Tihan</b> ディアナ・ティハン 様	『日本が教えてくれるルーマ ニア』
12	2009	チェッコ共和国 大使館	<b>Mr. Petr Holy</b> ホリー・ペトル 様	『歌舞伎が私に教えたこと』
13	2010	中華人民共和国 大使館	<b>Ms. Huang Jin</b> ファン・ジン（黄 錦） 様	『1平方メートルの日本』
14	2011	中華人民共和国 大使館	<b>Ms. Huang Jin</b> ヒョウ・ジュン（馮 淳） 様	『東日本大震災から学んだ自 然と共存の道』
15	2012	アメリカ合衆国 大使館	<b>Ms. Roshni Nirody</b> ニロディ・ロッシュニ 様	『忘れられた先駆者』

16	2013	ハンガリー共和国 大使館	<b>Mr. Kiss Gergely</b> キシユ・ゲルゲイ 様	『生きている鎖』
17	2014	インド大使館	<b>Mr. Rajesn Naik</b> ラジェシュ・ナヤク 様	『日本のウオシュレット』
18	2015	中華人民共和国 大使館	<b>Ms. Zhang Tianye</b> チョウ テン ヨウ 様	『雨降って地固まる』
19	2016	カザフスタン 共和国大使館	<b>Ms. Kulashbekova Jamilya</b> クラジベコバ・ジェミリア 様	『働く女性を支える笑顔』
20	2017	中華人民共和国 大使館	<b>Mr. Wang Hong Wei</b> 王 宏偉 (オウ・コウイ) 様	『鉄道旅の思い出』
21	2018	カザフスタン 共和国大使館	<b>Dr. Aidos Darkenov</b> ダルケノフ・アイドス 様	『気が付けば日本人になって いた私』
22	2020	アメリカ合衆国 大使館	<b>Mr. Jason Hackworth</b> ジェイソン ハクワース 様	『インクルーシブな社会を 目指そう!』
23	2020	アメリカ合衆国 大使館	<b>Ms. Pamela Pontius</b> パメラ・ポンティアス 様	『日本の製品を隠さないで!』
24	2021	カナダ大使館	<b>Ms. Lisa Mallin</b> リサ・マリン 様	『オリパラアスリートの気づ きから、私達の日常まで』

各国大使館員日本語スピーチコンテスト1998-2021年参加国大使館一覧表(1~24回)

大使館名	第1回 1998年	第2回 1999年	第3回 2000年	第4回 2001年	第5回 2002年	第6回 2003年	第7回 2004年	第8回 2005年	第9回 2006年	第10回 2007年	第11回 2008年	第12回 2009年	第13回 2010年	第14回 2011年	第15回 2012年	第16回 2013年	第17回 2014年	第18回 2015年	第19回 2016年	第20回 2017年	第21回 2018年	第22回 2019年	第23回 2020年	第24回 2021年	合計		
1 アフガニスタン・イスラム共和国大使館								1	1			2		1	2	1	1	2	1	1					2		
2 アメリカ合衆国大使館	1	1	1	1																						26	
3 アルジェリア民主人民共和国大使館						1													1	1						3	
4 アルゼンチン共和国大使館					1				1	1																3	
5 アルバニア共和国大使館													1		1	1										3	
6 アルメニア共和国大使館																										1	
7 アンゴラ共和国大使館																										1	
8 イギリス大使館	2	2	3	3	3	5			4	1	1					2	1						1		28		
9 イスラエル大使館								1	2	1								2	1					1	5		
10 イラク共和国大使館												1														1	
11 インド大使館		2	1				2	1	2			1	1				1			1	1				1	14	
12 インドネシア共和国大使館	2		2				2	1									1	1								9	
13 ウクライナ大使館		1	1	1	1				1	1												1				7	
14 ウズベキスタン共和国大使館	1	1		1																1						4	
15 ウルグワイ東方共和国大使館																	1	1								2	
16 エジプト・アラブ共和国大使館				1						1	1														1	4	
17 エル・サルバドル共和国大使館															1	1	1									3	
18 オーストラリア大使館			1	1	1	1			1	1	2	1	1	1	1	1	1		2						1	17	
19 オーストリア大使館							1							1													2
20 欧州委員会代表部			2								1																3
21 オランダ王国大使館						1		1																1	1	4	
22 オマーン国大使館							1																				1
23 カザフスタン共和国大使館	2	1	2	1			1					1			1			1	1	1	1	1				13	
24 カタール大使館																					1	1					3
25 ガボン共和国大使館						1																					1
26 カナダ大使館		1																								1	2
27 カメルーン共和国大使館												1															1
28 カンボディア王国大使館	1																										1
29 キルギス共和国大使館								1	1			1	1	2			3		1	1						11	
30 キューバ共和国大使館	1		1						1			1	1									2				7	
31 グルジア共和国大使館															1							1				2	
32 コートジボワール共和国大使館	1	1		1	1	1																				5	
33 コロンビア共和国大使館														1			2		1	1				1		6	
34 サウディ・アラビア王国大使館						1									1			2								4	
35 シリア・アラブ共和国大使館	1						1																	1	1	3	
36 シンガポール共和国大使館						1						1												1	1	4	
37 ジブチ共和国大使館																							1			1	
38 スウェーデン共和国大使館											1															1	
39 スリ・ランカ民主社会主義共和国大使館	1	1	1	1	1		1					1			2											9	
40 セネガル共和国大使館																										1	
41 セルビア共和国大使館	1		1				1	1		1								1		1						7	
42 タイ王国大使館		1	1	1		1	1	1																		6	
43 大韓民国大使						1																				1	
44 中華人民共和国大使館			1	2		1	2	2	1	2	1	2	2	1	1	2	1	1	2	1	2	1	1	1	1	27	
45 チェッコ共和国大使館												1	1													2	
46 デンマーク王国大使館		1	1																							2	
47 ドイツ連邦共和国大使館	1						2	1		1		1	2													8	
48 トルクメニスタン共和国大使館								1		1									1	1						5	
49 トルコ共和国大使館			1	1	1	1				1																5	
50 ドミニカ共和国大使館														1		1										2	
51 ナイジェリア連邦共和国	1		1																							2	
52 ニューージーランド大使館						1	1			3		1		1	1											8	
53 ネパール王国大使館	1		1										1													3	
54 ノルウェー王国大使館			1								1															2	
55 ハイチ共和国大使館						1																				1	
56 パキスタン・イスラム共和国大使館	1	1			1						1		1													5	
57 ハンガリー共和国大使館									1					1	1	1						1				5	
58 バーレーン王国大使館																							1			1	
59 バングラデシュ人民共和国大使館	1		1													1	1								1	5	
60 フィリピン共和国大使館		1										1					1							1		4	
61 フィンランド共和国大使館				1																						1	
62 フランス共和国大使館						2	1			1				1	2	1		1								9	
63 ブルガリア共和国大使館						1							1													2	
64 ベトナム社会主義共和国大使館																							1			1	
65 ベラルーシ共和国大使館								1			1															3	
66 ベナン共和国大使館		1	1	1																						3	
67 ベネズエラ・ボリバル共和国大使館																				1						1	
68 ボーランド共和国大使館								1		1	1			1								1	1			6	
69 ボリビア多民族国大使館																									1	1	
70 マレーシア大使館	1																					1	1	1		4	
71 ミャンマー連邦大使館			1	1																						2	
72 メキシコ合衆国大使館		1	1	1	1	1		1	1	1	2	1		1	1	1	1									15	
73 モリタニア・イスラム共和国大使館																	1									1	
74 モロッコ王国大使館										1	1															2	
75 モンゴル国大使館					1	1		1		1											1			1		6	
76 ラトビア共和国大使館											1	1														2	
77 リトアニア共和国大使館					1														1	1	1					4	
78 リビア・アラブ社会主義人民事務所					1																					1	
79 ルーマニア大使館	1	1	1	1								1							1	1	1					8	
80 レソト王国大使館												1														1	
81 ロシア連邦大使館	1	1	1	1	1	1			2	1		1	1	1	2	7	5	5	2	5	4	3	4		1	17	
キャンセル						1		2					1	2	7	5	5	2	5	4	3	4				42	
参加人員 合計	22	19	29	22	15	24	17	16	19	21	17	21	16	16	12	15	16	14	14	16	20	12	9	15	417		

## ■集合写真

### Group Photos of the 24<sup>th</sup> Japanese Speech Contest for Foreign Diplomats 2021





第24回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会役員

(敬称略・順不動) (敬称略・順不同)

役職名	氏名	肩書
アドバイザー	岩田和親	衆議院議員
アドバイザー	星野大輔	外務省大臣官房儀典総括官
アドバイザー	菅野弘一	都議会議員
実行委員会 会長	柴田巖	各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会 会長 アオバジャパン・インターナショナルスクール 理事長
名誉会長	梅北司	特定非営利活動法人大使館親善交流協会 理事長
副会長	篠原君男	元公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団
副会長	板倉平一	アオバジャパン・インターナショナルスクール 理事
理事	宇野令一郎	アオバジャパン・インターナショナルスクール 理事
理事	齋藤麻由	アオバジャパン・インターナショナルスクール ビジネスマネージャー
監事	間々田庸一郎	アオバジャパン・インターナショナルスクール 監査役



- ▶ CSRフラッシュ
- ▶ CSR勉強会
- ▶ シネマ&ブックレビュー
- ▶ 国内ニュース
- ▶ 国内企業最前線
- ▶ 海外最前線レポート
- ▶ 科学技術はエコの基本
- ▶ 識者に聞く
- ▶ CSR環境イベントカレンダー
- ▶ CSRマガジンについて
- ▶ 問い合わせ
- ▶ 関連リンク先

### 東日本大地震から明日へ

東日本大震災から10年。東北から“働く、暮らす、生きる”を問い直す。

帰還も転居も困難な、福島自主避難者に相談を呼びかける!

福島の地で、行政、企業、NPOの協働・連携を進める

復興、これからが本番だ!

入賞者を囲む、当日の参加者と審査委員などの皆さん(写真は主催者提供)

### CSRフラッシュ

#### 相違点よりも類似点

第24回大使館員日本語スピーチコンテスト2021

EMAIL SHARE いいね! 0

日本駐在の各国大使館員による日本語スピーチコンテストが開催されました。24回目となる今年は13カ国15人が出場。昨年はコロナ禍とあってオンライン開催となったものの、今年は対面とオンラインのハイブリッド開催が実現しました。受賞者5人のスピーチから外交官の貴重な体験談をお届けします。[2021年11月29日]



入賞者を囲む、当日の参加者と審査委員などの皆さん(写真は主催者提供)

## 外務大臣賞

### 私の発見の旅路:メロンパンから「遠慮の塊」へ



アルメニア共和国大使館 サルクリス・シルカニャン

私は外交官になるため大阪の関西国際センターで8か月間の研修を受けました。私が知っていた日本は祖国から遠く離れた国で、異なる世界だということだけでした。それはある程度真実でした。日本は訪問者を驚かせる独特な国で、一目で日本を理解することはできませんでした。ただ、この研修で私は多くを学び、日本はアルメニア人の私にとって共通点もあることを発見しました。

私の発見の旅は、研修所近くにあるコンビニでメロンパンを買ったことから始まりました。とても気に入り、どこから来たのかと思いました。調べてみると、このパンは日本の帝国ホテルで働いていたアルメニア人が1920年代の初頭に考案したものでした(会場から驚きの声)。数週間後、私は新幹線で東京に研修旅行に行きました。社内で弁当を食べていると窓から山が見え、私はアルメニアに引き戻されました。その山はアルメニアの代表的な山であるアララト山かと思いました。見えたのは富士山でした(歓声)。2つの山は紛らわしいほどよく似ています。



アルメニアのアララト山

翌日、日本銀行を見学して渋沢栄一を知りました。彼は1920年代の初頭、オスマン帝国の迫害から逃れてきたアルメニア人を助けるため救済基金を設け、アルメニア人難民の救済に尽力しました。私にとって大きな発見でした。

その後、私は大使館に赴任して玄関で見たのは、史上初の女性外交官であるダイアナ・アップカーの写真でした。彼女は横浜に住んでいたアルメニア人で100年前にアルメニア初の駐日外交代表になりました。また、戦後初の駐日ソ連大使や初の駐日イラン大使もアルメニア人だと聞きました。

その後、大阪時代の先生や友人たちに食事に誘われ、刺身を食べました。最後のひと切れが残ったのですが、だれも食べようとしません。日本にはこういうときに使う「遠慮の塊」という言葉があるそうですが、実はアルメニアにも「アモチチカ」という言葉があります。皆さんそれを披露すると、日本からきた言葉ではないかというのです。私の発見の旅は、このように日本に対する大きな驚きであふれています。私たちが住む世界には相違点よりも類似点や共通点が多いと思います。

## 文部科学大臣賞

### 東京2020の思い出



オーストラリア大使館 トム・ウィルソン

スポーツ好きの私は、4年に一度のオリンピック・パラリンピックが大きな楽しみです。シドニー五輪のときは大学生でした。自分の目で競技を見ることができました。東京への赴任が決まったとき、とてもうれしく思いました。ただ、コロナ禍の影響で東京2020の開催は不安でしたが、テレビで開会式を見て本当に感動しました。いま振り返るとオリンピック・パラリンピックの思い出がたくさんあります。

その1つはオーストラリアのソフトボールチームです。オーストラリアではマイナーなスポーツで、これまで一度も試合を見たことはありませんでした。ところがそのソフトボールチームが、東京2020に参加する海外チームの来日一番乗りを果たし、群馬県太田市で合宿をしました。外国選手団の受け入れに不安はあったと思いますが、太田市は素晴らしいおもてなしをしてくれました。オーストラリアの国歌を歌って歓迎してくれる模様はニュースにもなりました。

開会式の2日前、オリンピックの最初の競技として「日本対オーストラリア」の試合が福島で開催されました。私は大使とともに応援に行くことができました。復興五輪を感じさせる場面でした。試合では日本が勝利しました。帰り道、自動販売機で福島産の桃を買って食べたのですが、とてもおいしかったです(笑)。

ソフトボールの決勝戦では日本がアメリカを破り、金メダルを取りました。ルールさえ知らなかったソフトボールの競技で日本選手の活躍を見て、私は感動しました。オーストラリアのソフトボールチームも金メダルが目標でしたが6位に終わりました。試合後、オーストラリアの選手からは、「スポーツの最大の舞台で大好きなソフトボールができて幸せでした。日本のみなさまに感謝しています」と述べています。私もコロナ禍の不安を乗り越えてオリンピック・パラリンピックを開催した日本に感謝しています。



オーストラリアのソフトボールチーム(太田市にて)

## 文化庁長官賞

### パラアスリートの気づきから、私たちの日常まで



カナダ大使館 リサ・マリン

私は物心がついたころからオリンピックのアスリートを応援することが大好きでした。日常生活で体験できない、感動、驚き、学びがあるからです。1988年のカルガリー冬季五輪から東京2020まで、ずっとチームカナダを応援してきました。コロナ禍で世界中が困難に遭う中で、“多様性と調和”をテーマに開催された東京大会は、2人の女の子の母親として迎えた初めてのオリンピックでした。

外交官として日本でこの機会を与えられた私が、2人の娘たちに何が伝えられるか、何を体験させられるか、貴重なきっかけに思えました。最初に気づかせてくれたのは、女性アスリートの活躍とその重要性でした。子どものときに身体を鍛えることは、体力だけでなく、学力の向上、メンタルヘルスの改善にも大切ですが、体力には男女差があります。コロナ禍で女の子の4人に1人はスポーツを続けることが困難になったという調査もありました。

東京五輪に参加した18,000人のアスリートのうち49%は女性でした。史上、もっともジェンダーバランスの取れた大会となりました。パラリンピックにおいても参加者の40.5%が女性でした。リオ大会よりも100人ほど増えていると聞いています。

英語に「見えないものにはなれない」という諺があります。東京大会の女性アスリートの活躍を見ると、「私にもできる、やってみたい」と思った女の子は多いはず。娘たちもスポーツに興味を持ち始めました。

2つめの気づきは、障がいのある人の問題解決力の重要性です。私は東京2020のために来日したカナダの元パラリンピック選手カーラ・クワルトローさんの話を聞く機会がありました。彼女はパラリンピックの水泳競技で3つのメダルを取っていますが、現在は弁護士として人権問題に取り組んでいます。障がいを持つ人が参加できる社会の実現に向けて、何が必要なか聞いたところ、「障がいを持つ人のために世の中はできていない。でも、日々生きていくため、障がい者には課題を解決する力を持っている。問題解決のスーパーパワーを持っている」というものでした。

障がいを持つ人を雇用すれば、社会の問題解決につながるはず。コロナ禍で世界が複雑化する中、そのようなスーパーパワーを持った人材が求められています。世界には何らかの障がいを持つ16億人もの人々が生きています。パラリンピックのときだけでなく、日常の生活で彼らの活躍の場を広げていけるよう期待しています。

## 審査委員特別賞-1

### オリンピックからの響き



オランダ王国大使館 テオ・ヘータス

アントン・ヘーシンクという名前を聞いたことがありますか。昭和天皇は彼のことをよくご存じでした。ヘーシンクはオランダの柔道家です。1964年の東京オリンピック柔道無差別級で金メダルを獲得しました。柔道がオリンピックの正式種目として認められるきっかけになったとされています。

当時のオランダの新聞に面白い話が載っていました。オリンピックの前にオランダ大使が昭和天皇にお会いしました。天皇は、「アントン・ヘーシンク選手があなたの国に金メダルをもたらすことを願っています」と語りました。大使は、「陛下、お言葉ですが、日本の皆さんは日本選手が王者になる方を喜ぶのではないのでしょうか」と話しました。「いいえ、アントン・ヘーシンク選手を私は応援しています」と答えました。この温かい言葉を大使から聞いたヘーシンク選手は「天皇陛下のご期待に応えられるよう頑張ります」と語りました。

オリンピックイヤーの今年、オランダ大使館でオリンピック・パラリンピック競技大会の記念展示を行いました。ヘーシンク選手が神永昭夫選手との決勝戦で着用した柔道着なども展示しました。講道館館長や日刊スポーツ新聞の元記者宮沢さんを招待しました。



駐日オランダ王国大使館の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会記念展示から

宮沢さんは、神永選手が強いプレッシャーを感じていたと話してくれました。決勝戦でヘーシンク選手が押さえ込みで勝つと、沈黙が流れました。宮沢さんもショックですぐ記事が書けなかったそうです。翌朝、日刊スポーツから連絡が入り、ヘーシンク選手の試合後の行動についても書くように指示があり、ようやく記事をつくりました。実は試合の後、ヘーシンク選手の応援者たちが喜びのあまり試合会場の畳の上にあがろうとしましたが、ヘーシンク選手はそれを制止したのです。柔道と審判への敬意を忘れなかったのです。宮沢さんの記事でヘーシンク選手の柔道への理解が日本の人々にも伝わりました。ヘーシンク選手は柔道を通じて日本の人々との関係を大切に、両国の友好をより確かなものにしました。外交官にも到底マネのできないことでした。

東京オリンピックのあと、私の両親は3歳の私を柔道の道場に通わせました(歓声)。道場には柔道の技を日本語ローマ字で解説したポスターがありましたが、私にはその意味が理解できません。ただし、私が日本語に興味を示すタネをまいてくれ、日本への留学につながりました。ヘーシンクの金メダルは、私の人生にも思いがけない影響を与えました。

## 審査委員特別賞-2

### 『秘境も資源？』



米国大使館 ストレイダー・ペイトン

日本の友だちから、「日本は島国で資源がないという話をよく聞きます」。確かに石油などの鉱物資源は少ないかもしれませんが、経済的な価値をもたらす持続可能な資源が豊富だと思います。最大の資源は、日本の秘境にある豊かな自然です。私は数多くのエコツーリズムの体験を通じて、日本の秘境に魅了された一人です。

御蔵島という名前を聞いたことがあるでしょうか。黒潮が流れるこの島は、海洋生物にとって理想的な環境が広がっています。先日、妻を誘ってこの島に行ってきました。美しい景色、親切な人々、のんびりした雰囲気に出会ったのですが、海の中はさらに素晴らしく、海洋生物の極楽に入り込んだ気持ちになりました。

もっとも大きな資源はミナミハンドウイルカの群れです。野生のイルカと遊べるツアーがあると知ってから1年後、かわいくて賢い海の大使に会う夢をようやく実現しました。3日連続でいくつかのイルカの群れと知り合い、イルカと一緒に遊んだことで2人とも大いに満足を得ることができました。

御蔵島ではドルフィンスイムツアーで楽しい経験をさせていただきましたが、それに加えてイルカの種類や彼らが住む環境や行動についても知識を高めることができました。行楽+自然の教育がエコツーリズムだと思います。

御蔵島の経験は、環境資源が経済的資源になりうることを示しています。もし、伊豆諸島の漁業者が魚の乱獲を行ってしまうと、イルカの餌がなくなって観光の大切な資源を失ってしまうかもしれません。

日本のエコツーリズムの資源は海洋生物だけではありません。自然林、滝、山、温泉もあります。これらは次の世代のために大切に守らなければなりません。私は日本に勤務する間、日本の秘境を探検しながら、日本のエコツーリズムに参加し続けるつもりです。また、外交官として環境を守ることに全力を尽くします。地球は1つだけです。環境保護に関わることは、国籍を問わず、世界の人々全員が果たすべき行動です。

**※受賞者のスピーチは当編集部で要約しています。編集責任は当編集部にあります。**

◆CSR マガジン URL : <https://www.csr-magazine.com/>

報文化第 6788 号

令和 3 年 7 月 5 日

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
会長 柴田 巖 殿

外務大臣 茂木 敏 充  
( 公 印 省 略 )

#### 外務省名義等の使用許可について

2021年6月14日付貴信により申請のありました事業については、下記のとおり外務省名義等の使用を許可しますので通知します。なお、誓約した遵守事項に違反したと外務省が判断した場合、本許可を取り消しますので、あらかじめ御留意ください。

#### 記

- 1 事業名：第24回各国大使館員日本語スピーチコンテスト2021
- 2 許可する名義種類等：「外務省」後援名義、外務大臣賞1名
- 3 担当課室名：大臣官房文化交流・海外広報課
- 4 報告書の提出期限  
2021年11月3日の事業開催期間満了後、3か月以内に所定の報告書等必要書類（別添参照）を上記3の担当課室宛てに御提出ください。  
なお、別添のデータを利用される場合は、外務省ホームページ「外務省後援名義等の使用許可申請要領」からダウンロードしてください。
- 5 その他留意事項
  - ・事業計画等を変更したときは速やかに報告し、許可を求めてください。
  - ・新型コロナウイルス感染症をめぐる状況に鑑み、イベントの開催の是非については開催時の政府の方針を踏まえて慎重に判断いただくとともに、実施すると判断する場合には政府及びその関係機関が示す感染対策等を踏まえた対策を採った上で実施願います。

付属添付

儀第 7956 号

令和 3 年 8 月 6 日

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会

大会会長 柴 田 巖 殿

外務省大臣官房

儀典総括官

(公印省略)

アドバイザー就任依頼について (回答)

令和 3 年 6 月 17 日付文書にて依頼のありました第 24 回各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021 アドバイザー就任につきまして、異存はありません。

ただし、任期はスピーチコンテストが終了する令和 3 年 11 月 3 日 (祝・水) までとします。

3受文庁第1795号

令和3年7月30日

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会

会長 柴田 巖 殿

文化庁次長

杉浦 久弘

文化庁名義の使用許可及び文部科学大臣賞の交付について（回答）

令和3年6月14日付けで申請のあった標記については、下記によって実施して差し支えありません。

記

1. 行事等の名称

主催：各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会

名称：「第24回各国大使館員日本語スピーチコンテスト2021」

2. 使用を許可する文化庁名義

後援

3. 行事の期間等

期間：令和3年11月3日

港区立赤坂区民センター・区民ホール

表彰：令和3年11月3日

港区立赤坂区民センター・区民ホール

4. 文化庁後援名義の使用を許可する期間

令和3年7月30日 ～ 令和3年11月3日

5. 大臣賞を交付する者及びその数

外務大臣賞に次ぐ高得点者に対し1枚 名義を使用するトロフィー1

3受文庁第1828号  
令和3年8月11日

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
会長 柴田 巖 殿

文化庁長官  
都 倉 俊 一  
( 公印省略 )

第24回各国大使館員日本語スピーチコンテスト2021に係る  
文化庁長官賞・杯の交付について(回答)

令和3年6月15日付けで届出のあった標記については、文化庁長官表彰規程  
の第2条第2項に基づいて、下記のとおり実施することを許可します。

#### 記

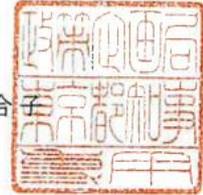
1. 行事等の名称  
主催：各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
名称：「第24回各国大使館員日本語スピーチコンテスト2021」
2. 行事等の期間  
期間：令和3年11月3日(水・祝)  
東京都港区赤坂区民センター・区民ホール  
表彰：令和3年11月3日(水・祝)  
東京都港区赤坂区民センター・区民ホール
3. 文化庁長官賞を交付する者及びその数  
優秀者に対し1枚 名義を使用する杯1



3 政外事第 76 号  
令和 3 年 7 月 8 日

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
会長 柴田 巖 様

東京都知事  
小池 百合子



東京都後援名義の使用について (承認)

令和 3 年 6 月 14 日付文書で申請のあった標記の件について、下記のとおり承認します。

#### 記

#### 1 東京都後援名義の使用を承認する行事

- (1) 行事名 「第 24 回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021」
- (2) 実施期間 令和 3 年 11 月 3 日 (祝・水) 午後 1 時 00 分から午後 5 時 00 分まで
- (3) 実施場所 東京都港区赤坂区民センター・区民ホール

#### 2 後援名義使用承認の条件

- (1) 東京都は、この行事に要する費用を負担しません。
- (2) 東京都後援名義使用の印刷物等の作成、新聞等への掲載、インターネットを利用した広報等を行う場合は、事前にその原稿を東京都政策企画局外務部事業課に届け出てください。
- (3) 行事計画に変更があった場合は、直ちに届け出てください。
- (4) 行事の終了後、速やかに結果の概要に収支決算書を添付して文書により報告してください。なお、東京都において必要と認めるときは、東京都後援名義の使用状況について報告を求めることがあります。
- (5) 行事の実施に当たり、新型コロナウイルス感染症のまん延の防止のための指針 (以下「ガイドライン」という) を遵守するとともに、開催場所の入り口等来場者の見やすい場所にガイドラインに定める措置を遵守していることを示す標章の掲示に努めてください。
- (6) 行事の実施上、上記 (1) から (6) までの使用承認の条件に違反したとき又は東京都後援にふさわしくない行為があった場合は、この承認を取り消すことがあります。

#### 【連絡先】

〒163-8001  
東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
東京都政策企画局外務部事業課外務調整担当 戸井  
電話：(03) 5388-2235



第2号様式(第5条関係)

3港総総後第39号  
令和3年9月7日

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
大会会長 柴田 巖 様

港区長 武井 雅昭



港区後援名義等使用承認決定通知書

令和3年9月1日付け港区（後援・共催）名義使用申請について、下記の条件を付して承認します。

記

- 1 後援名義等の対象  
第24回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト2021
- 2 事業期日  
令和3年11月3日
- 3 後援名義等使用承認期間  
承認の日から令和3年11月3日まで
- 4 経 費  
経費の負担は一切いたしません。
- 5 事業計画変更の届出  
申請後事業計画に変更があった場合は、直ちに届け出てください。
- 6 承認の取消し  
名義使用承認行事としてふさわしくない行為があったときは、承認を取り消すことがあります。
- 7 事業報告書の提出  
事業終了後は、直ちに報告書を提出してください。
- 8 後援名義使用承認行事に関して、区は責任を負いません。

## 特別共催実施協定書(案)

公益財団法人 港区スポーツふれあい文化健康財団(以下「甲」という。)と各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会(以下「乙」という。)は、「公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団後援名義等承認事務取扱基準」に基づき、特別共催するため、次のとおり協定を締結する。

- 1 甲と乙は、文化の振興を図るために協働して、「第24回各国大使館員日本語スピーチコンテスト2021」(以下「本事業」と言う。)を実施するものとする。
- 2 乙は、本事業の目的及び事業の実施責任を明らかにする書類を作成し、甲に提出するものとする。
- 3 甲は、本事業の実施にあたり、施設利用申込みの特例扱いと施設使用料の免除、及び情報誌「キスポーツ」掲載等の広報を行うものとする。
- 4 本事業の実施にあたり、上記3の甲が担当する事項以外の事項は、乙の負担において実施するものとする。
- 5 乙は甲に対して本事業終了後実施内容が分かる書類を提出するものとする。
- 6 甲及び乙は、協定に関することで変更が生じた場合は、直ちに連絡し調整するものとする。
- 7 乙は、本事業実施に際し、利用施設又は、第三者に損害を与えたときは、その損害を賠償しなければならない。
- 8 この協定に関して生じた疑義の解決及びこの協定に定めのない事項の処理については、甲、乙誠意を持って協議するものとする。
- 9 乙は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、公益社団法人全国公立文化施設協会が定める「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」、及び港区と本事業の会場である赤坂区民センターが定める施設利用の規定と利用ガイドラインに沿った形で公演の準備と実施を進め、感染の防止に最大限の努力を行う。

この協定を証するため、本協定書を2通作成し、甲、乙記名押印のうえそれぞれ1通を保有するものとする。

令和3年7月26日

甲 東京都港区赤坂四丁目18番13号  
公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団  
理事長 田中 秀司



乙 東京都練馬区光が丘7-5-1  
各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
大会会長 柴田 麻



## 後援名義使用承認書

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
会長 柴田巖 様

独立行政法人 国際交流基金  
日本語第1事業部  
部長 村田 春文 

第24回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021  
に対する国際交流基金後援名義使用承認について

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は当基金事業に対し格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和3年 6月 14日付でご申請いただきました当基金後援名義使用の件について、検討の結果、下記の通り名義後援を決定しましたので、お知らせいたします。

なお当基金の後援名義の使用に際しましては、別紙の事項にご留意いただきますようお願いいたします。

敬具

### 記

1. 後援名義使用対象事業名 : 第24回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021
2. 事業実施期間 : 令和3年 11月 3日
3. 実施場所 : 東京都赤坂 赤坂区民センター
4. 後援等の種類 : 後援
5. 名 義 : 国際交流基金
6. 本件に関する問合せ先 : 国際交流基金  
日本語第1事業部  
企画調整チーム

TEL : 03-5369-6066、FAX : 03-5369-6040  
担当: 長瀬 裕太 (E-mail: Yuta\_Nagase@jpf.go.jp)

以上

国際交流基金

The Japan Foundation

[www.jpf.go.jp](http://www.jpf.go.jp)

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-4 四谷クルーゼ

Yotsuya Cruce, 1-6-4 Yotsuya, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0004

日本語第1事業部

Japanese-Language Dep. I

電話 :03-5369-6066

Phone :03-5369-6066

FAX :03-5369-6040

F A X :03-5369-6040

3港国協第102号

令和3年10月1日

特定非営利活動法人大使館親善交流協会  
各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
会長 柴田 巖 様

一般財団法人 港区国際交流協会

理事長 鳥飼 玖美子



一般財団法人 港区国際交流協会 後援名義使用承認書

令和3年6月16日付で申請のあった後援名義の使用については承認いたします。

記

1 事業名

第24回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト2021

2 開催日

2021年11月3日(祝・水) 午後1時00分～5時00分

3 会場

港区立赤坂区民センター・区民ホール(定員400席)

〒107-0052 東京都港区赤坂4-18-13 TEL 03-5413-2711

4 参加費等

無料

5 事業希望(対象及び人員)

コンテスト参加者約12名、審査員・観客その他200名

令和3年06月25日

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
会長 柴田 巖 殿

NHK視聴者総局 事業センター  
事業センター長 梶 健一郎



第24回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト2021 について

標記につきましては、下記のとおり協力いたしますので、よろしくお取り進めください。  
なお、申請後事業計画に変更があった場合は、至急ご連絡ください。  
変更内容によっては、ご協力をお断りさせていただくことがありますので、予めご了承ください。  
また、当該事業に係る者が暴力団関係者と判明した場合には、ご協力をお断りさせていただきます。  
事業終了後、実施結果関係資料をご送付ください。

記

・協力事項：後援 名義「NHK」の使用

\*印刷物に名義を使用される際には「NHK」の表記をお願いいたします。

事務担当  
視聴者総局 事業センター  
平島 雄一 ・ 中野 寛奈  
電話 03-5455-4337

post card



第24回  
各国大使館員  
日本語スピーチコンテスト 2021  
JAPANESE SPEECH CONTEST FOR FOREIGN DIPLOMATS

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
〒179-0072 東京都練馬区光が丘7-5-1 アオバジャパンインターナショナルスクール内  
TEL.070-3529-4069 FAX.03-6735-4092

Organizing Committee for the Japanese Speech Contest 2021 for foreign diplomats

# 第24回

# 各国大使館員

# 日本語スピーチコンテスト2021

## JAPANESE SPEECH CONTEST FOR FOREIGN DIPLOMATS



特定非営利活動法人  
大使館親善交流協会  
Foreign Embassies Friendship Association

第22回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト2019  
後援：外務省、文化庁、東京都、NHK、港区役所、財団法人港区国際交流協会  
共催：独立行政法人国際交流基金、アオバジャパン・インターナショナルスクール  
特別共催：公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団  
協力：公益財団法人 松山バレエ団、早稲田大学国際学生友好会



※写真は2019年のもの。2020年はオンライン開催。

(昨年度参加国：アメリカ合衆国、オランダ王国、コロンビア共和国、シリア・アラブ共和国、シンガポール共和国、大韓民国、マレーシア、ロシア連邦)

●2021年11月3日(水・祝) ●13:00~17:00(予定) 12:30~受付開始

**[会場] 赤坂区民センター・区民ホール**

事前お申し込み受付はこちら

[申込サイト]<https://www.bbt757.com/svlEnquete/jsp/user/top?id=JSC2021>

お問い合わせはこちら

<http://j-fefa.jp/>

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会

〒179-0072 東京都練馬区光が丘7-5-1  
アオバジャパン・インターナショナルスクール内  
(会長：柴田 巖 担当：金子 香)

TEL.070-3529-4069 FAX.03-6735-4092

[e-mail] [speechcontest@j-fefa.jp](mailto:speechcontest@j-fefa.jp)



QRコードより  
申込のアクセス  
できます！

入場無料!!

観覧者  
募集!

各国大使館員による  
様々なテーマのスピーチを  
聞くチャンス!  
ぜひご来場ください!

●会場では検温・消毒・マスクの着用にご協力ください。  
●コロナの感染状況によってはオンライン開催に変更いたします。  
その際はお問い合わせHP(<http://j-fefa.jp/>)をご確認ください。

- 主催：各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会
- 共催：特定非営利活動法人大使館親善交流協会  
アオバジャパン・インターナショナルスクール
- 特別共催：公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団  
(Kissポート財団)
- 後援：外務省、文化庁、東京都、港区役所、港区国際交流協会  
NHK、独立行政法人国際交流基金、各国大使館を予定
- 協力：早稲田大学国際学生友好会、公益財団法人松山バレエ団  
ビジネス・ブレイクスルー大学



Organizing Committee for the Japanese Speech Contest 2021 for foreign diplomats

第 24 回  
「各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021」  
プログラム

令和 3 年 11 月 3 日 (水・祝)

港区赤坂区民センター

— 後 援 —  
外務省  
文 部 科 学 省  
文化庁  
東京都  
NHK  
港 区  
国 際 交 流 基 金  
一般財団法人港区国際交流協会

特別共催:公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団  
共 催:アオバジャパン・インターナショナルスクール  
主 催:特定非営利活動法人大使館親善交流協会  
各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会  
会 長 柴 田 巖  
〒179-0072 東京都練馬区光が丘 7-5-1  
TEL.03-6904-3102 FAX.03-6735-4092

第24回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021  
出場者一覧表

順番	大使館名	スピーカー名	タイトル名
1	インド大使館	Mr. Abhishek Goel アビシェク ゴエル 様	『日本と私』
2	エジプト・アラブ 共和国大使館	Ms. Rasha Hassan ラシャ ハッサン 様	『日本の学生対社会人』
3	アメリカ大使館	Mr. Bon E. Fleming ボン・フレミング 様	『カントリーロードを離れて ～祭りの山車の上で見つけた道』
4	アンゴラ共和国 大使館	Ms. Amelia Mutango Fernandes アメリア・ムタンゴ・フェルナン デス 様	『日本人の外国人に対する 受容性はどうか?』
5	シンガポール共和国 大使館	Mr. Nicholas QUAH ニコラス・クア 様	『居心地』
6	アメリカ大使館	Mr. Strader Payton ストレイダー・ペイトン 様	『秘境も資源?』
7	カナダ大使館	Ms. Lisa Mallin リサ・マリン 様	『オリパラアスリートの気づきか ら、私達の日常まで』
	14:15～14:30	休憩 (15分) / 15 minutes break	
8	シリア・アラブ共和国 大使館	Mr. Feras ALATTRASH フィラス・アルアトラッシュ 様	『日本語学習で学んだこと』
9	アルメニア共和国 大使館	Dr. Sargis SHIRKHANYAN サルキス シルカニャン 様	『私の発見の旅路：メロンパンか ら 「遠慮の塊」へ』
10	オランダ王国大使館	Mr. Theo Peters テオ・ペータス 様	『オリンピックからの響き』
11	ロシア連邦大使館	Ms. Khaiznikova Alena ハイジニコワ・アリョーナ 様	『選択された東京』
12	アメリカ大使館	Mr. Garvey McIntosh ガーヴィー・マッキントッシュ 様	『未来の平和のためには、互いの 文化を理解することが必要です』
13	ボリビア多民族国 大使館	Ms. Claudia Gozalves クラウディア・ゴサルベス 様	『日本で出会った故郷の音楽』
14	バングラデシュ 人民共和国大使館	Mr. .Syed Nasir Ershad ソヨド ナシール エシャド 様	『何が私を日本に連れてきたの でしょう』
15	オーストラリア大使館	Mr. Tom Wilson トム・ウィルソン 様	『東京 2020 の思い出』

「第 24 回 各国大使館員日本語スピーチコンテスト 2021」  
プログラム

※時間は変更になる可能性がございますので、予めご了承ください。

時 間	進 行
13 : 00 ~ 13 : 30	<p><b>【開会式】</b>            主催者挨拶：            各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員長 柴田 巖            来賓祝辞：            衆議院議員 岩田 和親</p> <p>審査委員挨拶：            カザフスタン大使館 クルマンセイト・バトルハン公使            外務省大臣官房文化交流・海外広報課長 津田 陽子            文化庁国語課長 圓入 由美            NHK エデュケーショナル ディレクター 村島 章恵            ＊審査委員紹介</p>
13 : 35 ~ 14 : 15	各国大使館員による日本語スピーチ (7名)
14 : 15 ~ 14 : 30	15 分間休憩
14 : 30 ~ 15 : 20	各国大使館員による日本語スピーチ (8名)
15 : 20 ~ 15 : 30	10 分間休憩
15 : 30 ~ 16 : 10	<b>【各国大使館員によるお国紹介セッション】</b>
16 : 10 ~ 16 : 15	5 分間休憩
16 : 15 ~ 16 : 45	<p><b>【表彰式】</b>            ●審査講評            ・村島 章恵 NHK エデュケーショナル ディレクター</p> <p>●表彰            ・外務大臣賞・杯 (1名)            ・文部科学大臣賞・杯 (1名)            ・文化庁長官賞・杯 (1名)            ・審査委員特別賞 (2名)</p> <p>閉会のご挨拶            各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員長 柴田 巖</p>

【アドバイザー】 岩田和親様（衆議院議員）  
 星野大輔様（外務省大臣官房儀典総括官）  
 菅野弘一様（都議会議員）

【名誉会長】 梅北 司 様

【実行委員長】 柴田 巖 様（各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員長・アオバジャパン・インターナショナルスクール 理事長）

【審査委員】

1. 審査委員長 村島章恵様（NHKエデュケーショナル ディレクター）
2. 審査員 イムティアズ・アハマド 閣下（パキスタン・イスラム共和国大使館）
3. 審査員 クルマンセイト・バトルハン公使参与（カザフスタン共和国大使館）
4. 審査員 津田陽子様（外務省大臣官房文化交流・海外広報課長）
5. 審査員 圓入由美様（文化庁国語課長）
6. 審査員 堀江さゆみ様（NHK国際放送局・主幹）
7. 審査員 日下部 禧代子様（港区国際交流協会 理事）
8. 審査員 太田 貴二様（港区国際化・文化芸術担当課長）
9. 審査員 関口 明子様（国際日本語普及協会 理事長）
10. 審査員 エリック フランシス様（ビジネス・ブレイクスルー大学院教授）

【司会者】 大里 希世 様

主 催	特定非営利活動法人大使館親善交流協会 （各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会）
共 催	アオバジャパン・インターナショナルスクール
特別共催	公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団
後 援	外務省、文化庁、東京都、NHK、港区、一般財団法人港区国際交流協会 独立行政法人国際交流基金
協 力	早稲田大学国際学生友好会 公益社団法人松山バレエ団 ビジネス・ブレイクスルー大学